

## 沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会（第4回）議事概要

- 1 開催日時：令和7年1月28日（火）14:00～16:00
- 2 開催場所：平和祈念資料館 2階大会議室
- 3 出席委員：仲地博、林博史、瀬戸隆博、古賀徳子（オンライン）、謝花直美（オンライン）、鳥山淳（オンライン）、里井洋一、新城俊昭、今理織（オンライン）、山城彰子、石堂徳一、宮良純一郎、山口剛史（オンライン）

事務局： 沖縄県平和祈念資料館 館長 前川早由利、学芸班長 中山晋、主幹 比嘉栄司、主査 嶺井京子、主査 棚原和宏、主任（学芸員）仲程勝哉、主事 川満彰、学芸員 大城航、学芸員 玉城優子  
平和・地域外交推進課 課長 玉元宏一郎  
八重山平和祈念館（オンライン） 分館長 比嘉丞、主査 上原峻人  
乃村工芸社 齊藤恵理、森誠一郎、上原裕、藤森功、宮城あずさ、平良里紗

### 4 議題等

- (1) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画（素案）について〔資料2〕、展示項目リスト（素案）について〔資料3〕
- (2) その他、今後の検討課題に関する事項について〔資料4〕

### 5 議事等

- (1) 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画（素案）、展示項目リスト（素案）について

ア 事務局が資料2、資料3の説明を行った。

イ 委員から次のような発言があった。

#### ①戦前・戦中時代部会

- ・膨大な量のリストを作成しており、その内容をどのように割り振っていくかは、これからの作業。第4展示室は大きくは変更しない予定。
- ・導入展示には、いろいろな問いかけを入れていきたいと考えており、それにより現在の時系列の展示構成から変わる可能性もある。
- ・基本計画段階では、リスト内容はあくまで仮案とすることを要望したい。
- ・展示室の名称も今の段階で決められないため、仮のタイトルであることを明記してもらいたい。

#### ②戦後時代部会

- ・展示室のタイトル「太平洋の要石」については、見直しが必須だと考えている。

#### ③平和の発信・学習部会

- ・平和の礎と展示を結びつけ、礎に刻まれた人や家族を自分ごと化し、ど

のように平和をつくっていくのかを含めて考える場とするために、各委員で展示内容やストーリー案を持ち寄ることになっている。

- ・まだ、展示内容やキーワードを具体的には詰め切れておらず、次の監修委員会では大きく変わっている可能性もあると考えている。
- ・「琉球処分」は、当時の明治政府視点の用語。「琉球併合」「廃琉置県」など、別の用語が考えられないか検討してもらいたい。

#### ④八重山平和祈念館部会

- ・戦争マラリアが起きた原因を、アメリカ上陸からではなく、琉球王府時代に遡って展示することを検討し、基本計画（素案）等に反映した。
- ・民間人のほかに多くの軍人もマラリアの犠牲になっている。一方、戦争マラリアに巻き込まれなかった島もある。戦争マラリアの本当の元凶は誰なのか、を突き止めていきたいと考えている。
- ・軍人の犠牲がどれくらいあったか、という点については、きちんと調査し、客観的なデータに基づいて見ていかないといけないと思っている。

#### (2) 今後の検討課題に関する事項について

ア 事務局が資料4の説明を行った。

イ 委員から次のような発言があった。

##### ①「展示むすびのことば」について

- ・元々の成立経緯が、沖縄戦を見た後のむすびの言葉であることなどから、現在の場所のままにすることが妥当と考える。第5展示室のあとにも新たなメッセージをつくるべきではないか。
- ・内容や場所も含め変えるべきではない。その意味で、「展示むすびのことば」に込められた思いなどは、1階で展示するのがいいのではないか。
- ・総括的な世界の位置づけをするのがいいのではないかと思う。
- ・展示全体の「むすびのことば」と捉える必要は無いと思う。

##### ②「各展示室の名称」について

- ・もう少し展示の中身が詰まってから改めて検討したい。

##### ③「収容地区」の展示のすみ分けについて

- ・戦前戦中時代、戦後時代、それぞれの部会で「収容地区」の展示内容を検討したうえで調整することとしたい。
- ・各部会で検討するとしても、なるべく早い段階で見解を持ち寄り、意見交換を始めた方がいいのではないか。

##### ④「未来への平和創造」の移設について

- ・単に1階に移すということではなく、第5展示室に何を残し、1階に何を入れるのか、各委員と一緒に検討する必要があるのではないか。

令和7年12月23日

知事公室 平和祈念資料館

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館  
展示更新基本計画  
（素案）

2025（令和 7）年 月 日

沖縄県平和祈念資料館

# 目 次

第1章 沖縄県平和祈念資料館（本館）	1
1 常設展示室（2階）	1
（1） 展示更新の全体構成について	1
① 展示構成について	1
② ニュートラルゾーンについて	1
（2） 展示展開の方向性	2
① 第1展示室：沖縄戦への道	2
② 第2展示室：鉄の暴風	2
③ 第3展示室：地獄の戦場	3
④ 第4展示室：証言	4
⑤ 第5展示室：太平洋の要石	4
（3） 展示でとりあげる事象	5
① 第1展示室：沖縄戦への道	5
② 第2展示室：鉄の暴風	5
③ 第3展示室：地獄の戦場	5
④ 第4展示室：証言	5
⑤ 第5展示室：太平洋の要石	5
2 子ども・プロセス展示室（情報ライブラリー含む）（1階）	6
（1） 全体構成について	6
① 全体構成の考え方	6
② 新たなコーナー設定と各コーナーのねらい	6
③ 展示構成のイメージ	8
④ 今後の主な検討課題	9
（2） 展示でとりあげる事象	10
第2章 八重山平和祈念館（分館）	11
1 展示更新の全体構成について	11
（1） 展示更新の方向性	11
（2） 展示の全体構成について	13
① 現展示の構成とリニューアル後の展示の構成	13
（3） 各展示コーナーのねらい	14
（4） 各展示コーナーのねらい	15
（5） 展示でとりあげる事象	15

第3章 全館に共通する展示更新に関する事項.....	16
1 解説ツールに係る更新 .....	16
(1) 更新のねらいと方向性 .....	16
2 展示ケースの更新（全館共通） .....	19
(1) 更新のねらいと方向性 .....	19
3 今後の主な検討課題 .....	20

第 1 章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 常設展示室（2 階）  
（1）展示更新の全体構成について  
① 展示構成について

展示室の構成と各室のテーマは、原則として現展示室を継承し、基本構想に基づいて戦争体験者なき時代を見据え、非体験者が沖縄戦や基地問題等を自分に引き寄せて考えることができる展示構成とする。

② ニュートラルゾーンについて

第 1 展示室と第 2 展示室の間、第 2 展示室と第 3 展示室の間、第 3 展示室と第 4 展示室の間にそれぞれ設けられているニュートラルゾーンは、新たに取り上げる展示内容が増加することから隣接する展示室に統合することも検討する。



- 琉球処分から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きてしまったのかを考えてもらう。
- 富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩み始めた日本と戦時体制に、沖縄が、どのように組み込まれていったのか、また、沖縄戦前夜にどのようなことが起きたのかを伝える。

- 米軍上陸以降、およそ 3 か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄の風景を一変させ、軍民合わせて 20 数万もの死者を出した沖縄戦の凄まじさを伝える。
- 日本軍による住民虐殺や強制集団死、戦争マラリア、飢え、朝鮮人虐殺など、沖縄戦のもとで、人々を死に追いやった数々の“地獄”が繰り広げられたことを伝える。

- 沖縄戦において、戦火から身を守る場所として重要な役割を果たしたガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどういう戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。
- 戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿をリアルに伝え、戦争の悲惨さ、恐ろしさをストレートに訴える。

- 沖縄戦の実相を物語る物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を物語る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言に、利用者一人一人が個にかえって向き合うことができる場とすることをねらいとする。

- 沖縄の戦後は、収容所からはじまったこと、その状況について伝える。
- 15 年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は 27 年に及ぶ米国による統治のもと戦争と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、基地から派生する事件・事故にさらされ続けてきたことを伝えるとともに、そうした困難な状況の中でも、沖縄の文化を復興させる動きや、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿があったことにもふれる、
- 復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も全国の米軍施設・区域の約 7 割が沖縄に集中したままであることなど、今もなお、基地の島であり続ける沖縄の状況について伝える

## （２）展示展開の方向性

### ① 第１展示室：沖縄戦への道

#### ア 展示のねらい

- ・琉球処分から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きてしまったのかを考えてもらう。
- ・富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩み始めた日本と戦時体制に、沖縄が、どのように組み込まれていったのか、また、沖縄戦前夜にどのようなことが起きたのかを伝える。

#### イ 展示更新の留意点

- ・後続する展示への興味・関心を喚起し、他人事ではなく、自分に引き寄せて考えるきっかけを提供するために、戦時体制下に生きる沖縄の人々の姿に触れることができる導入展示を新設することを検討する。
- ・沖縄の女性史研究の進展をはじめ、開館以降蓄積された研究成果を踏まえ、展示内容の見直しを図る。
- ・沖縄の人々の被害の側面だけでなく、近代日本の中で、沖縄のあり方を問い、模索した沖縄の人々の姿も取り上げ、その経験が今に引き継がれていることへの気づきを醸成する視点も加味する。
- ・興味・関心を刺激し、自ら考えるきっかけを提供するために、利用者に“問いかける展示”の導入を検討する。

#### ウ 今後の主な検討課題

- ・導入展示の観覧時間や展示室に占める割合をどの程度見込むか。
- ・編纂中の『沖縄県史 沖縄戦 ビジュアル版』の資料等の活用方策。

### ② 第２展示室：鉄の暴風

#### ア 展示のねらい

- ・米軍上陸以降、およそ３か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄の風景を一変させ、軍民合わせて 20 数万もの死者を出した沖縄戦の凄まじさを伝える。
- ・日本軍による住民虐殺や強制集団死、戦争マラリア、餓死、朝鮮人虐殺など、沖縄戦のもとで、人々を死に追いやった数々の“地獄”が繰り返されたことを伝える。

#### イ 展示更新の留意点

- ・老朽化により作動しなくなってしまった沖縄戦の経緯を伝える映像演出について、先端技術の導入を視野に入れつつ、装置・システムの刷新を検討するとともに、映像ソフトの見直しを検討する。

- ・映像鑑賞者の視界と展示室間の移動動線が交差しないように、映像鑑賞エリアと展示室間の移動動線の配置を検討する。
- ・沖縄戦下での障がい者やハンセン病患者の状況を伝える展示を追加するなど、「住民犠牲の諸相」で取り上げる内容について見直し、充実を図る。
- ・「沖縄戦を生き抜いた人」、「命を救った人」にも焦点を当てる。
- ・興味・関心を刺激し、自ら考えるきっかけを提供するために、利用者に“問いかける展示”の導入を検討する。

#### ウ 今後の主な検討課題

- ・大型スクリーンの位置、地図（ジオラマ）の活用方策。
- ・映像を見るための座席数、配置をどうするか。
- ・第2室副室から第3展示室への新たな通路の設定。
- ・「平和の礎」のデータ分析方法と活用方策

### ③ 第3展示室：地獄の戦場

#### ア 展示のねらい

- ・沖縄戦において、戦火から身を守る場所として重要な役割を果たしたガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。
- ・戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿をリアルに伝え、戦争の悲惨さ、恐ろしさをストレートに訴える。

#### イ 展示更新の留意点

- ・再現されたガマに入る前に、沖縄及び沖縄戦においてガマとはどういうものなのかを伝え、ガマ自体への理解を促す展示を追加することを検討する。
- ・アブチラガマで起きたことを再現した現在の展示の他、対照的な結末を迎えることになってしまったチビチリガマとシムクガマなどのガマに関する展示を取り上げることを検討する。
- ・ガマの内部に再現されているシーンについて、見ただけでは何を伝えたいのか分かりにくいとの指摘があることから、音声等の演出を加えたり、投降ビラなど関連する実物資料を展示するなど、各シーンが意味する内容を補完する演出・展示を検討する。

#### ウ 今後の主な検討課題

- ・民間人収容地区についてどう表現するか、第5室との展示内容の住み分け。
- ・残虐な写真について、子ども等への配慮・写真の展示方法及び場所の見直し。



#### ④ 第4展示室：証言

##### ア 展示のねらい

- ・ 沖縄戦の実相を物語る物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を物語る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言に、来館者一人一人が個にかえって向き合うことができる場とすることをねらいとする。

##### イ 展示更新の留意点

- ・ 老朽化が進行しているタブレット端末の更新を検討する。
- ・ ブック形式の証言展示と、電子媒体を活用した証言展示の、各々のメリット・デメリットを検証し、証言を伝える展示メディアの最適なあり方を検討する。
- ・ 電子媒体を活用する際には、各証言が示す事象が起きた場所や日時などの、追加の情報を付加することも検討する。

##### ウ 今後の主な検討課題

- ・ アナログ的手法とデジタル的手法のバランス

#### ⑤ 第5展示室：太平洋の要石

##### ア 展示のねらい

- ・ 沖縄の戦後は、収容所からはじまったこと、その状況について伝える。
- ・ 15年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米軍による統治のもと戦争と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝えるとともに、そうした困難な状況の中でも、沖縄の文化を復興させる動きや、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿があったことにもふれる。
- ・ 復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も全国の米軍専用施設の約7割が沖縄に集中したままであることなど、今なお基地の島であり続ける沖縄の状況について伝える。

##### イ 展示更新の留意点

- ・ 開館以降の主な出来事として、沖縄国際大学への大型輸送ヘリ墜落や、女性への性的暴行等の米軍基地から派生する事件・事故、環境問題、今なお残る基地の現状や近年の軍事強化など、沖縄県の置かれている状況について、展示内容を追加する。
- ・ 開館以降の歴史的事実の追加を踏まえたゾーニングの見直し・展示配置を検討する。
- ・ 米軍統治下時代の沖縄、復帰後の沖縄がどのような状況であったのかをリアルにイメージしてもらい、自分に引き寄せて考えてもらうために、その時々の人々の姿、生活の営みを見せる展示を工夫する。

- ・米軍統治下時代の街の再現コーナーの展示更新にあたっては、開館以降の研究成  
果を踏まえつつ、再現された建物やシーンを通じて何を伝えるのかを改めて検討  
する。そして、その内容を読み解くヒントを提供するために、解説機能を付加し  
たり、人々の話声や、戦闘機の飛行音等の音響演出、当時沖縄がどう見られてい  
たかを伝える映像展示などを加えることを検討する。
- ・興味・関心を引き出し、自ら考えるきっかけを提供するために、利用者に“問い  
かける展示”の導入を検討する。

### ウ 今後の主な検討課題

- ・米軍視点の「太平洋の要石」という展示室名称のあり方の検討。
- ・「構造的暴力」を展示でどのように表現するか。
- ・戦争と紛争、世界情勢の展示場所のあり方の検討

### (3) 展示でとりあげる事象

※ここに示す展示項目については、設計時に追加、削除、再編、組み換え等の必要性をさらに検  
討することとする。

#### ① 第1展示室：沖縄戦への道

※第1展示室の展示項目リストを挿入

#### ② 第2展示室：鉄の暴風

※第2展示室の展示項目リストを挿入

#### ③ 第3展示室：地獄の戦場

※第3展示室の展示項目リストを挿入

#### ④ 第4展示室：証言

※第4展示室の展示項目リストを挿入

#### ⑤ 第5展示室：太平洋の要石

※第5展示室の展示項目リストを挿入

## 2 子ども・プロセス展示室（情報ライブラリー含む）（1階）

※展示と情報ライブラリーを一体的に展開するため情報ライブラリーも本項に含む。

### （1）全体構成について

#### ① 全体構成の考え方

- ・同展示室の展示は、老朽化が進行しているとともに、開館以降大きく変化した世界各国の状況、社会情勢に対応できなくなっている。このため、情報ライブラリーを除き、全面的に更新することを検討する。
- ・世界の戦争・紛争、国際理解、いじめなどの人権問題、環境問題について、知り、考え、自分なりに意見を出すプロセスを実践するという現在のコンセプトを継承しつつ、前述した基本構想に基づき、新たなコーナーも設定し、全体構成を検討する。

#### ② 各コーナーの設定と内容

同展示室を構成するコーナーの設定と内容は次のとおりとする。

##### ア 「平和の礎」の刻銘者に着目したコーナー

- ・同展示室と「平和の礎」との結びつきを意識し、「平和の礎」と本資料館を往還する学びの空間として一体的に関連づけていくことを目指す。
- ・「平和の礎」の刻銘者及びその家族、あるいは関係する人々を取り上げ、戦前から戦中、場合によっては戦後までの足跡を辿る展示を展開する。実在した一人一人に焦点を当てることで、利用者が自分事に置き換えて戦争の事実を受け止め、考える機会を提供することをねらいとする。
- ・戦争の恐ろしさ、不条理さを物語る多様な事実を紹介するために、多くの刻銘者を取り上げることを目指し、展示を定期的に更新していくことを検討する。
- ・「戦没者の追悼と平和祈念」「戦争体験の教訓の継承」「安らぎと学びの場」という「平和の礎」の基本理念が明確に理解できるような展示を検討する。
- ・デジタルディスプレイなど先端技術を導入するなど、来館者の興味・関心を引き出す展示手法を検討するとともに、定期的に展示変更が可能となる展示手法についても検討する。

##### イ 今日の、そして世界の「戦争と平和」を考える

- ・世界では今なお、紛争・戦争が続いており、多くの命が失われ続けている。ここでは、その時々戦争・紛争についての情報発信を行う。
- ・戦争・紛争等の直接的暴力だけでなく、貧困や飢餓などの構造的暴力や環境問題等についても取り上げ、考える場を設けることを検討する。
- ・足元の平和に関する問題から、「平和とは何か？」「人権とは何か？」を問いかけ、一人一人が主体的に平和創造を考え、学べる場を提供することを目指す。

- ・“戦争と平和”の問題にだけ着目するのではなく、ノーベル平和賞や沖縄平和賞を受賞した団体の活動など、平和を創造するために活動している人、団体、取り組みを紹介し、沖縄をはじめ、日本・世界の平和創造活動の息づかいを感じさせ、勇気づける場を設けることを検討する。

#### ウ 子どものための企画展示コーナー

- ・同展示室では、開館以降、沖縄戦や国際理解、人権を考える企画展示を数多く開催してきた。この活動を継続し、さらに発展させていくことを目指し、企画展示コーナーを継承・設置することとする。
- ・子どものための「ひろば・ゆいまーる」は、これまで、展示室の奥に位置しており、利用者に気づいてもらいにくい状況にあった。このため、展示更新においては、多くの利用者を惹きつけやすい、視認性の高い場所に設置する方向性で、配置を検討する。

#### エ 親子のプレイルーム

- ・子ども連れの家族や、近隣の子ども達、遊びながら学べる場、親子や友達同士の語り合い、学び合いを育む場として、「親子のプレイルーム」を設けることを検討する。
- ・沖縄戦をはじめ、世界の紛争・戦争、国際理解、いじめなどの人権問題、環境問題等について、触れる展示や玩具、クイズなど、見て、触って、考えることができる展示や学習ツールを整備し、多様な年齢層の利用者が楽しみながら気づきを得たり、学べたりする場として充実させる。
- ・「子どもライブラリー」を設置し、沖縄戦や戦争と平和に関連する子ども向けの図書を情報ライブラリーから移設し、気軽に子ども達が手に取りやすい環境づくりを検討する。

#### オ 対話のひろば

- ・
- ・平和ガイドや語り部活動、読み聞かせ、ワークショップ、学生の研究成果の発表等、多様な平和創造活動に活用できる「対話のひろば」を設けることを検討する。
- ・ホワイトボードや映像装置、可動式で、組み換えが可能なテーブルや椅子、展示什器など、活動を支援する機能を検討し整備する。
- ・戦争と平和の問題について、自分なりに考えて意見を出すプロセスを実践するというコンセプトを踏まえ、来館者に主体的に考えてもらうきっかけを提供し、一人一人が自分なりの意見や思いを何らかのかたちで残していけるようにし、それらを多くの人々で共有できる機能を併設することも検討する。
- ・

## カ 情報ライブラリー

- ・既存の機能を継承しつつ、さらなる充実を図る。
- ・平和学習や調査・研究を支援する開かれたライブラリーとして、沖縄戦をはじめ、戦争と平和に係る図書を収集・保管・整理し、幅広い層の人々の利用に供する。
- ・学生等が、常設展示の理解を深めるため、また、学校教諭や平和ガイドなどが平和学習を進めるためのノウハウや平和学習のために必要な教材や資料を入手することができるよう、ワークシート等の参考資料の提供や相談に対応する。
- ・幅広い層の平和学習や調査・研究活動を支援するため、観覧動線や書架・学習スペース等の配置などを見直し、来館者が気軽に利用でき、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるような空間づくりを検討する。
- ・証言映像コーナーについて、視聴空間のあり方や映像機器の更新・増設などを検討し、周囲への音漏れの改善とともに、2階常設展示室の第4室における、戦争体験者の証言集や証言映像を、無料で時間をかけて視聴できるスペースとしてより一層の充実を図る。
- ・証言映像コーナーの映像ソフトの充実を目指し、2022（令和4）年度に収録した「米軍統治下時代の証言」についても、視聴可能となるよう検討し、字幕や証言に出てくる用語の解説、場所を示した地図などの追加も検討する。
- ・日本語を母語としない人向けの多言語サービスや、障がいのある方などの利用者の多様なニーズに対応した機能整備や空間づくりに配慮するなど、多様な人々に開かれた場として充実させる。

## ③ 展示構成のイメージ

各コーナーの展示構成の留意点、イメージは次のとおりとする。

- 空間を大きく「コミュニケーションエリア」「展示エリア」「ライブラリーエリア」の3つのエリアで捉え、各コーナーの内容と関係性に基づき、配置を設定することを想定する。
- 賑やかになることが想定される「コミュニケーションエリア」と、静寂な環境が望まれる「ライブラリーエリア」とが隣接しないように両サイドに配置し、その中心に展示エリアを配置することを検討する。
- 利用者のスムーズな動線と運営・管理のしやすさを考慮し、展示エリアへの入り口を統一する。
- 情報ライブラリーの出入口は1階奥側に位置しており、利用者から目に着きにくい位置にある。情報ライブラリーをより利用しやすくするような、動線や展示からライブラリーの関連図書に案内するような仕掛けなどを検討する。

1 【展示構成のイメージ図】

※展示構成のイメージ図を簡略化

2

3

④ 今後の主な検討課題

4

・「平和の礎」の展示で取り上げる刻銘者等の選定と展示手法等

5

・国内外の平和博物館及び関連施設との連携する展示のあり方

6

・可変的な展示の運用の方向性

7

- 1      **（２） 展示でとりあげる事象**
- 2            ※プロセス展示室の展示項目リストを挿入
- 3
- 4
- 5

## 第2章 八重山平和祈念館（分館）

### 1 展示更新の全体構成について

#### （1）展示更新の方向性

##### ア 沖縄戦に至るまでの経緯を伝える展示を追加

- ・ 現展示は、米軍上陸からはじまっているが、沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員からの「沖縄戦に至るまでの経緯の説明がない」という指摘を踏まえ、それ以前の沖縄戦に至るまでの経緯について分かりやすく伝える展示を新たに追加することを検討する。
- ・ 沖縄戦に至るまでの経緯を伝えるにあたっては、近代の幕開けの前史として、増収をもくろむ首里王府により重い人頭税が課されたことや、八重山を大津波が襲い、石垣島で人口の半分近く、八重山全体で3割以上が犠牲になったこと、耕地増大を図るために住民たちのマラリア有病地への強制移住が行われたことなどに触れ、近代を迎える八重山がどういう状況にあったのかを物語るところからはじめるものとし、これに続けて、琉球処分が断行され、沖縄県が誕生し、日本に組み込まれていく流れと、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯を、八重山の視点から描き出す方向性で検討する。

##### イ 八重山地域及び出身者の証言資料を活用した展示導入

- ・ 戦中、八重山で何が起こり、人々はどのような体験をしたのかをリアルに伝えることができる証言資料を活用した展示を積極的に導入し、八重山で起きた戦争の実態を、自分とは無関係の遠い出来事としてではなく、できるだけ自分に引き寄せて考えてもらうことを促す展示として充実させる。
- ・ 取り上げる証言の種類としては、「戦争マラリア」に関するものに限定するのではなく、八重山地域及び出身者の多様な戦争体験を物語る証言を取り上げるとともに、八重山地域外での戦争体験についても取り上げていく方向で検討し、証言を通じて沖縄戦の多様な側面を伝えることができるよう留意する。

##### ウ 八重山における「戦争マラリア」を伝える展示を再編し、訴求力を強化

- ・ 本施設の展示の中核をなす「戦争マラリア」の展示について、「戦争マラリア」とはなにか、どういう経緯で起こったのかを、当時日本軍が何を意図し、どういう軍命を出したのかを明らかにしつつ、「戦争マラリア」発生の構図を浮き彫りにする。加えて、「戦争マラリア」によって八重山の人々はどのような状況に置かれ、どのような体験を強いられたのかについて鮮明に描き出し、誰にも分かりやすく伝えることができる展示として再編・強化する。
- ・ 実物資料、証言、絵、ジオラマ等を有機的に結びつけて、八重山における「戦争マラリア」の実情について鮮明に描き出す展示の実現を目指す。



1           **エ 八重山の各島々の沖縄戦の状況について伝える展示を追加**

- 2           ・石垣島だけでなく、西表島、波照間島、竹富島、小浜島、鳩間島、黒島、新城  
3           島、与那国島についても戦争の実態を取り上げ、各島によって異なる、沖縄戦時  
4           の状況について伝える展示を追加することを検討する。  
5           ・沖縄戦時の戦争の状況だけでなく、「戦争マラリア」があったとされる島々につ  
6           いては、強制的に疎開させられた場所や「戦争マラリア」による住民の被害状況  
7           についても伝えることを検討する。

8  
9           **オ 八重山の戦後史・復興史を伝える展示を追加**

- 10          ・八重山の戦後史・復興史について伝える展示を追加・充実させる。  
11          ・戦後のマラリア防遏の取り組みについては、現状の展示では、琉球列島米国民  
12          政府が招請したウィーラー博士によるマラリア撲滅を達成した「ウィーラープラ  
13          ン」のみを紹介しているが、展示更新にあたっては、ここに至るまでに、戦後直  
14          後の米軍主導によるマラリア防遏の取り組みや大濱信賢によるマラリア撲滅対策  
15          があったこと、引揚者の帰還や米軍による土地接収にともなう移民により人口が  
16          増加し、鎮圧されかけていたマラリアが再燃したこと等の展示追加を検討する。  
17          ・マラリア撲滅に向けた取り組みだけでなく、戦後の混乱した状況とともに、八重  
18          山復興博覧会の開催、道路開通など、復興の歩みについても伝えることを検討す  
19          る。

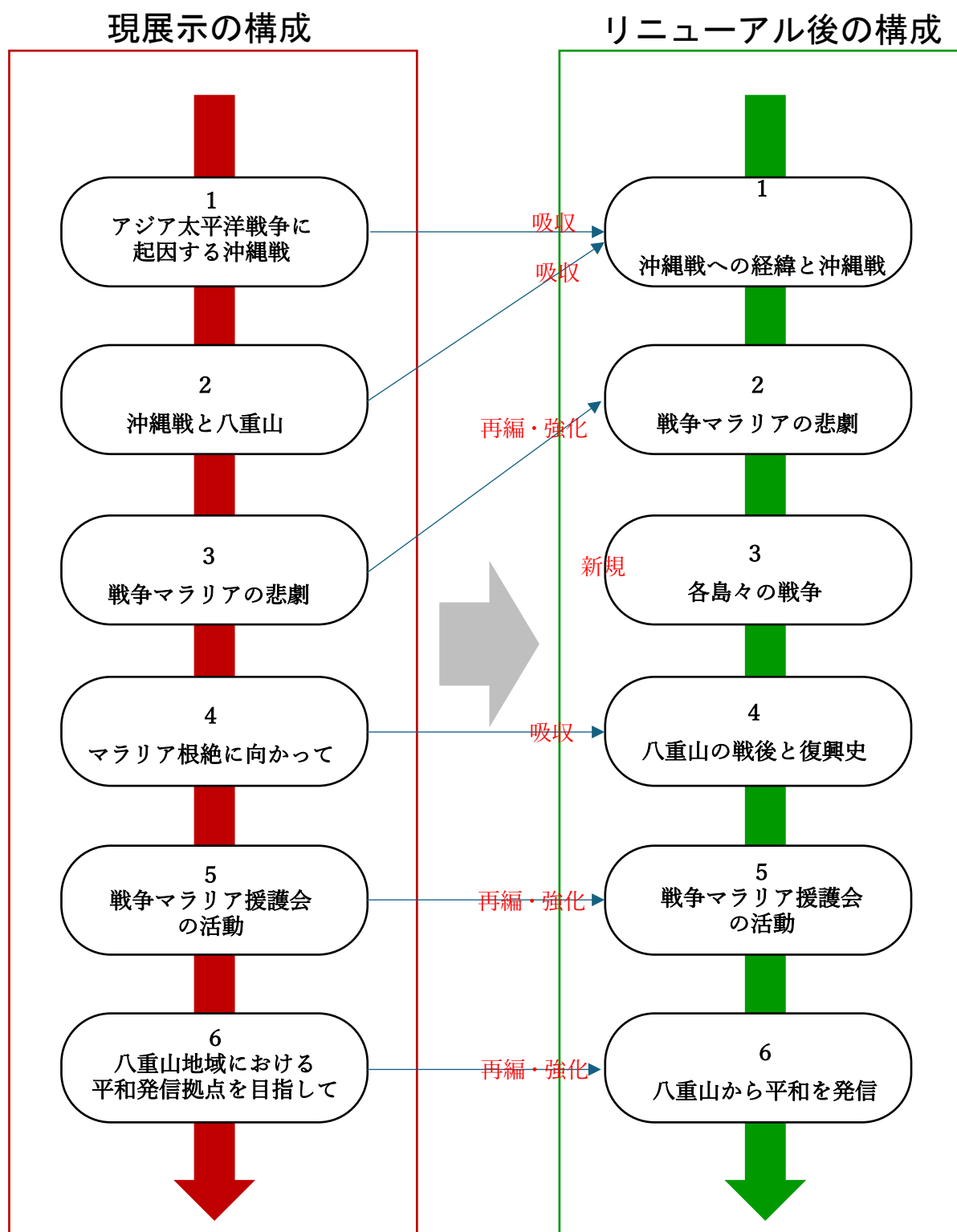
20  
21          **カ “沖縄のこころ” を理念とした八重山から平和を発信する展示を設置**

- 22          ・展示の締めくくりとして、「八重山から平和を発信する」をテーマに、展示を設  
23          けることを検討する。  
24          ・人気を集める観光地として娯楽や癒しを求める多くの人々で賑わうようになった  
25          八重山において、現在もなお、沖縄戦及び「戦争マラリア」という、過酷な体験  
26          の記憶を抱えながら、平和を願う心、失われた命に対する哀悼の想いを込めた諸  
27          活動が営まれていることを紹介する。その一方で、中国の海洋進出や頻発する北  
28          朝鮮によるミサイル実験、台湾有事への懸念などを背景に、国境地帯の防備を固  
29          めるという主旨で、八重山に自衛隊配備が進められている状況があることなど  
30          についても伝えることを検討する。  
31          ・主に台湾などの近隣諸地域との交流といった、境界の地域だからこそできる平和  
32          構築の在り方について伝えることを検討する。  
33          ・  
34          ・沖縄戦、「戦争マラリア」という過酷な体験をした八重山からの、ゆずることの  
35          できない平和を願う心を伝えることを目指す。

## (2) 展示の全体構成について

### ① 現展示の構成とリニューアル後の展示の構成

前項で述べたリニューアルにあたっての留意点に基づき、リニューアル後の展示を以下のような構成とする。



### (3) 各展示コーナーのねらい

#### 1 沖縄戦への経緯と 沖縄戦

- ・八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・また、上記を通じて、そこに見え隠れする差別構造を浮き彫りにする。
- ・米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

#### 2 戦争マラリアの悲劇

- ・戦争マラリアが、軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた地獄のような惨劇であったことを伝える。
- ・食料も薬もないなかで、住民たちがどういう悲劇を強いられたのかを伝える。

#### 3 各島々の戦争

- ・石垣島以外の島々の沖縄戦時の状況を伝える。
- ・各島の住民たちに下された強制避難の状況を解説する。
- ・証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。

#### 4 八重山の戦後と復興史

- ・戦後取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚者による人口増加、沖縄島での米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取組等を紹介。
- ・復興に向かう八重山の状況について紹介する。
- ・

#### 5 戦争マラリア援護会 の活動

- ・沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や本施設が設置されてことなどについて伝える。

#### 6 八重山から平和を発信

- ・沖縄戦、そして、「戦争マラリア」を経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信。
- ・国境に位置する八重山の、アジア情勢に左右されている現在の状況について伝える。
- ・八重山で取り組まれている平和活動を紹介。
- ・沖縄県（本館・分館）の取り組みを紹介。

1      **（４） 今後の主な検討課題**

2          ・年表設置のあり方の検討

3

4      **（５） 展示でとりあげる事象**

5          ※A3 サイズで常設展示室のリスト完成版を挿入

6

7

### 第3章 全館に共通する展示更新に関する事項

#### 1 解説ツールに係る更新

##### (1) 更新のねらいと方向性

###### ア 研究成果の蓄積を踏まえた表記内容の見直し・更新

開館から25年の間に明らかになった歴史的事実や、『沖縄県史』をはじめとする沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する最新の調査・研究成果を踏まえて現在の解説内容を見直すとともに、必要な情報の追加、表記や用語等の統一等を図ることで、沖縄戦に関する正しい情報を利用者に提供する。

###### イ すべての利用者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

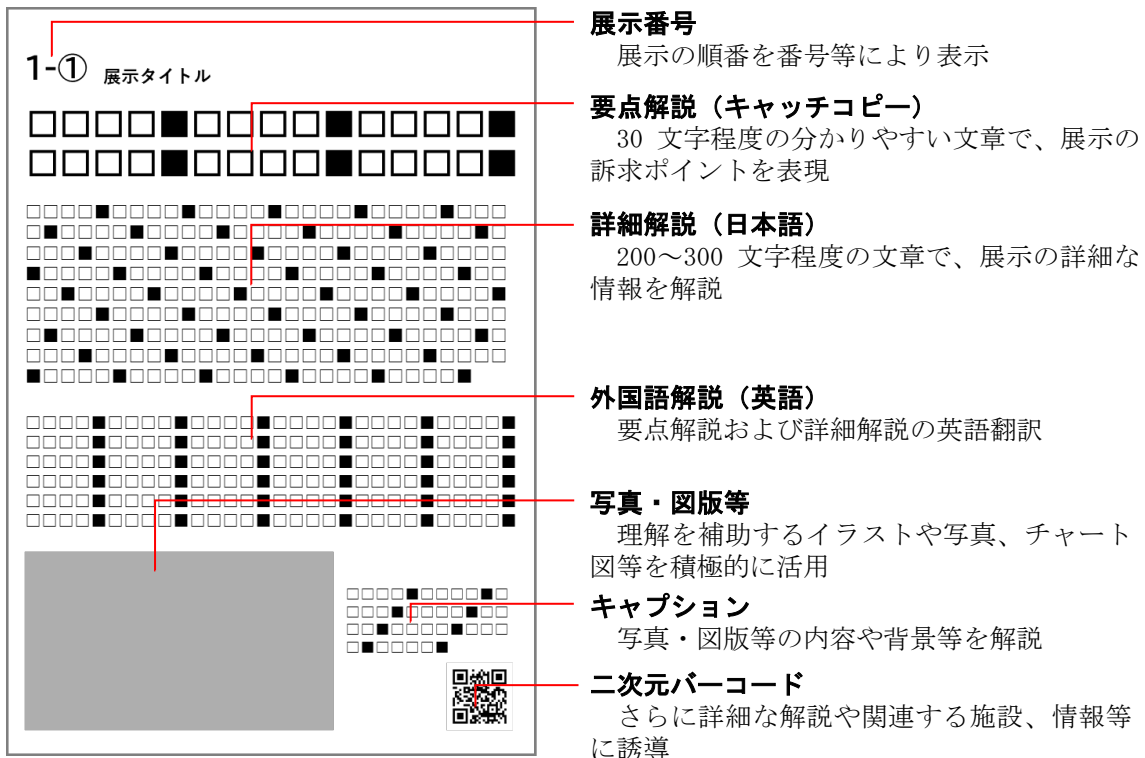
解説文章については、専門用語を多用せず、簡潔で分かりやすい表現とすることを基本とする。加えて、英語等主要言語による翻訳、視覚的に理解を補助するイラストや写真、図表の活用、動画解説でのテロップ表記や手話通訳、文字サイズや文字色のコントラストへの配慮など、全館でアクセシビリティの高い解説を目指す。

###### ウ 基礎知識をあまり持っていない層、より専門的に学びたい層の双方に対応

最新の研究成果に基づいた沖縄戦の基礎的な内容を提供する初心者解説と、より深く詳細な情報を提供する専門解説を用意するなど、多層的な情報提供を行う。

#### 【展開イメージ】

##### ● 解説パネルの基本的な構成について



##### ● フォントや色づかいについて

- 1 ユニバーサルデザインの観点から最適な文字サイズやフォント、色づかいを採用する。  
2 文字サイズは 10mm (28pt) 以上を基本に、解説パネルと利用者の距離、展示空間の明るさ  
3 等も考慮の上、最適なサイズを決定する。またフォントはユニバーサルデザインのコンセ  
4 プトに基づいて作成されたUDフォント<sup>1</sup>を採用、さらに色覚多様性に配慮した、誰もが  
5 認識しやすい配色デザインを取り入れる。

○ 視認しやすい

× 視認しにくい

フォント

なもぽ

UDフォント

なもぽ

非UDフォント

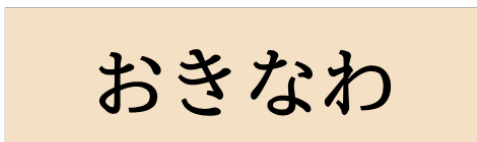
色づかい



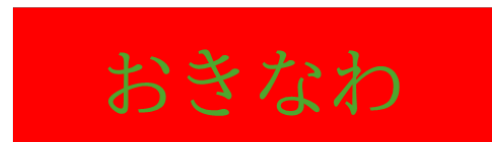
黒地に白文字



灰地に白文字  
地と文字の明暗が乏しい



ベージュ地に黒文字



赤地に緑文字  
ハレーションを起こす

## ● 文章について

解説パネルの文字数は極力 200～300 文字程度に留めるとともに、専門用語の多用を控えた文章表現を基本とする。加えて、最新の研究成果に基づいた用字用語、表記ゆれの統一を図り、全館で統一感のある読みやすい文章を目指す。

また、さらに詳細な情報を提供する際は、解説シートや携帯端末のアプリケーションの導入も検討する。

## ● デジタル解説装置の導入について

<sup>1</sup> UDフォント：ユニバーサルデザインの考え方に基づいて作成されたフォント。シンプルな画線や太めの字体、広く取られた文字のアキなど、誰もが視認、判読しやすくなる工夫が施されている

1 他施設での活用が進むデジタル解説装置やアプリには、タッチスクリーン等によるイン  
2 タラクティブな操作により、利用者一人ひとりが自分のペースで理解を深められる、写真  
3 や動画を含めた多層的な情報を提供できるといった利点がある。耐久性やメンテナンス性  
4 等の課題を十分に検証したうえで、当館での導入を検討する。



5 利用者の学習ニーズに合わせて、館内を  
6 ナビゲートするタブレット端末



7 多言語による字幕解説や手話動画による  
8 解説

## 2 展示ケースの更新

### (1) 更新のねらいと方向性

#### ア 大切な資料を守るために必要な機能を整備

展示ケースには、物理的な損傷や温湿度、紫外線、虫害等の環境要因から資料を守る機能、盗難や破壊、地震等の災害から資料を守る機能等が求められる。特に現状で不具合が発生するなど、必要な機能を満たしていない展示ケースについては、今回の展示更新において改修を行う。

#### イ 資料の入れ替えがしやすい操作性も重視

展示ケースの改修にあたっては、開閉のしやすさも重視することで、資料の設置や移動、日常的なメンテナンス等が容易で、かつ資料の入れ替え作業時の安全性、快適性を備えたケース設計を行う。

#### ウ 誰にとっても資料が見やすい鑑賞性に配慮

現状、子ども達や車椅子利用者等が資料を鑑賞しづらい展示ケースがあり、今回の展示更新による改善が求められる。展示ケースのガラス面の高さや幅、照明の配置等の工夫により、誰もが鑑賞しやすい環境を整備する。

### 【展開イメージ】

#### ●展示ケースの展開イメージ

第1室「住民犠牲の諸相」など  
展示ケースが多用されている空間の  
改修イメージを想定



- 1        **3 今後の主な検討課題**
- 2
- 3



赤字は委員及び意見、青字は現展示室にあるもの、緑字はノムラ素案

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. 導入展示	1 戦争前夜の村の様子と家族の人々 (1944年から1945年の地上戦が始まるまで)	①貧しいながらも家族おだやかな暮らしのなかで地上戦が近づいてくる様子 ②貧しい家族の中にはイトマン売りの少年、少女の辻売り、ハンセン病患者などの差別もあった。 ③父を戦争で亡くした子どもは靖国の子となり、村で面倒をみることに ④村の有識者の言動で村人が徴用、供出などで動いていくようす（ ）  イメージ案（ジオラマ？D X？）  来館者に、沖縄の人たちがなぜ戦争へ巻き込まれる（もしくは向かった）のか、疑問を持ってもらう工夫	・父（35～40歳）：①農業から②防衛隊へ →なぜ、兵役を終えた父が防衛隊へとられたのだろう？ ・母：①家事②農業③子育て④防火訓練⑤竹やり訓練⑥食料供出⑦国防婦人会への加入⑧村出身の出征兵士の見送りなど →なぜ、女性はこんなにも働かなければいけなかったの？ ・祖父母：①農業及び家事②祖父は在郷軍人会③隣保班への参加など → 祖父にも役割があったの？ ・長男：①学校の様子（もしくは青年学校）②防火訓練③竹やり訓練④陣地構築（飛行場建設）⑤青年団⑥村出身の出征兵士の見送り⑦召集（鉄血勤皇隊もしくは防衛隊）へ →なぜ、16歳以下の少年が召集されたの？ ・長女：①学校の様子②家事手伝い③防火訓練④村で共同保育園の保母⑤共同畑作業⑥陣地構築（飛行場建設）⑦村出身の出征兵士の見送り⑧召集（看護学徒隊）へ →なぜ、少女までが召集されたの？ ・小学生高学年：①学校の様子②家事手伝い③竹やり訓練④畑作業（ヒマ油・松脂などの採取）⑤共同畑作業⑥出征兵士の畑作業手伝い⑦陣地構築手伝い⑧村出身の出征兵士の見送り⑨対馬丸へ →疎開は子どもを守るため？それとも戦争をスムーズに行うため？ ※村では馬や牛が徴用され、養っていた豚・山羊の屠殺禁止。祭祀行事の禁止された →なぜ？ ※村内にはハンセン病患者がおり、村人から差別を受けていた →なぜ？ ※貧しい家族では、少年がイトマン売りに出され、少女は辻に売られた →え、子どもを売るとはどういうこと？	第1室の半分程度で表す工夫 ・その際の導線や展示手法を乃村で検討 ・現在の展示パターンにこだわらず、副室も活用した半分程度の面積  ※ここは導入部分なのでさらっと通りながら、この人のことを調べてみようという雰囲気をつくりだす工夫が必要
2. 沖縄戦への道	1 琉球処分から同化政策へ	①1609年の薩摩藩による琉球侵攻と両属関係の琉球国の様子 ②琉球国から琉球藩へ ③日本政府初の海外派兵（征台出兵、現「台湾遭害事件之墓」）から牡丹社事件 ④八重山・沖縄へ日の丸の設置 ⑤琉球藩から沖縄県へ ⑤日本の分島・増約案、グラントによる調印	・左記のキーワードをできるだけ簡潔な文章でまとめる ・牡丹社事件（現行：台湾遭害者之墓→首狩りの絵図あり ） ・現行の地図（沖縄県全図）を活かしながら、八重山諸島・沖縄へ日の丸が掲揚されるアニメーションと、宮古諸島と沖縄島の間に分島されるラインが開かれ、そしてプラントが出現するアニメーションなどを入れる。（現行の展示物：井上外務卿の「琉球分割条約案」） ・「琉球処分」の様子を展示。（琉球処分時に伊藤博文が初代沖縄県令鍋島直彬に出した私文書「沖縄人を信用するな」）を展示（県公文書館所蔵）	文章や図、人物像が時系列で現れてくる様子を映像で表現できないか  「台湾遭害事件之墓」、この写真はわかりにくい、事件の説明は残す。

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	2	日清戦争・日露戦争・第1次世界大戦	①なぜ、日清戦争が始まったの？ ②なぜ、日露戦争が始まったの？ ③なぜ、第1次世界大戦に日本が参加したの？ ④大戦後の戦後恐慌、次の大波となって押し寄せた世界恐慌と沖縄 ⑤ソテツ地獄	現行展示（青は削除予定） 文：日清戦争・日露戦争・韓国併合 図：各国の利権がある鉄道 地図 写＋図＋文：下関条約 写＋図＋文：ポーツマス条約 写＋図＋文：韓国併合条約 図＋文：螢の光 ケース展示（キャプション）→皇軍と沖縄 図：徴兵システム 写：徴兵検査（昭和16年） 写：少年兵の身体検査（昭和19年） 実物？明治43年度沖縄警備隊区徴募概況 文：第一次世界大戦とアジアの情勢 図：シベリア出兵、南洋諸島地図 図＋文：第一次世界大戦時のヨーロッパの情勢地図 写＋文：21か条の要求 実物？：屋部憲通氏の軍刀 実物？：日露戦況新聞用語字解 実物？：明治三七八年従軍記章 実物？大正三年乃至九年戦没従軍記章 実物？戦捷記章 文：戦後恐慌と沖縄 文：ベルサイユ体制 文：国際連盟 図＋文：世界恐慌に対する各国の対応 図：各通貨ブロック地図 図：持てる国と持たざる国 文：日本の経済恐慌 写：空腹に大根をかじる子どもたち 写：身売りの相談所の掲示板 図：製糸業の盛衰グラフ ケース展示（キャプション）→ソテツ地獄 図：職業別戸数の推移 図：砂糖生産の推移 図：サトウキビ単価の推移 実物？：「沖縄救済論集」湧上聾人著	旧③④⑤を統合した  国際的な動きと沖縄の動きを半々で  沖縄の動きが入っていないので入れる

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	3 十五年戦争と南進政策	<p>①十五年戦争の始まり ②なぜ南進政策をとったの？ ③支那事変って？ ④壬人針 ⑤奉公袋 ⑥沖縄防備対策で沖縄を守るため？ ⑦ファシズム ⑧第二次世界大戦</p> <p>現展示（整理要） ①満州事変 満州国の成立 ②2・26事件 ③南進政策 ④ヨーロッパにおける第2次世界大戦 ⑤日中戦争 ⑥米国による石油禁輸策 ⑦マレー半島への侵攻と真珠湾攻撃 ⑧太平洋戦争の侵攻図</p>	<p>現行展示（青は削除候補） 文：十五年戦争と南進政策 写＋文：十五年戦争の展開 実物？昭和六年乃至九年事変従軍記章之証（解説要） 実物？：軍隊手帳（解説要） 実物？：支那事変従軍記章（解説要） 実物？：貴重品袋（実物なら残す） 実物？：壬人針（褪色している。実物を展示する場合はレプリカにすべきでは） 実物？：奉公袋（実物なら残す候補に。解説要） 実物？：沖縄防備対策（沖縄連隊区司令部）1934年（解説要） 文：ファシズムの台頭と第二次世界大戦 図：アジアの列強勢力 地図 図：第二次世界大戦（欧州戦線） 地図 写：独・アーヘン市、アフリカに植民地 拡大を要求するデモ 1937年（昭和12年）6月2日 写：ヒットラー、ローマ訪問。出迎えるムッソリーニ伊首相の車に同乗。1938（昭和13）年5月3日 ケース展示→ 実物？大阪毎日新聞（1941年12月9日）、実物？海軍飛行兵採用の通知1944年12月20日 実物？：軍人勅諭 実物？『アサヒグラフ』1943年1月発行 実物？：『写真週報』1942年7月発行 実物？：功賞賜金賞状1942年6月8日 写：開戦詔書（国立公文書館蔵） 図＋文：アジア太平洋戦争の動き 図＋文：米軍の対日攻略作戦 地図</p>	<p>旧⑥⑧⑪を統合した</p> <p>図：日中戦争、資源分布 地図 図：国際情勢、ABCD包囲陣 図：最近の東亜形成図解 大阪毎日新聞社編纂（キャプションなし） 地図 図：日本の石油（製品を含む）の輸入先別構成 ※上記、青字は削除</p>
	4 近代の沖縄と軍隊 （新設）	<p>①軍人勅諭 ②分遣隊派遣 ③陸軍教導団 ④徴兵制 ⑤徴兵令施行 ⑥沖縄からの徴兵（九州） ⑦戦争への従軍（日露、第1次・日中） ⑧戦死者の慰霊・顕彰（後の時期だけにするか？） ⑨海軍施設 ⑩臨時要塞 ⑪中城湾と船浮湾 ⑫海軍の寄港と県民の歓迎 （日本軍の沖縄県民感：県史65－68）※①～⑫</p>	<p>・軍人勅諭（現展示物：旧8－⑦） ・兵役の説明（旧3－⑧） ・徴兵検査（旧3－⑨⑩※もう少し古いもの） ・地図：沖縄からの徴兵の配属先・九州（表または地図） ・日露戦争 第1次世界大戦 シベリア出兵（旧4－⑤⑦⑧⑨⑩⑪ 旧6－⑦⑧⑨） ・沖縄警備隊区徴募事務概況 1910（県史66） ・沖縄県の歴史的関係及人情風俗 1922（県史67） ・沖縄防備対策 1934（旧6－⑬ 県史68） ※上記、提供</p>	<p>県史（沖縄戦） 県史近代571－230頁</p>
	5 移民と出稼ぎ （新設）	<p>①移民の始まり・展開 1899年 ②當山久三 ③移民先：南米・北米・ハワイ・台湾 ④南洋移民・南洋群島・フィリピン・ダバオ ⑤本土出稼ぎ1930年代 県人会/関西と東京（本土留学生） ⑥国策移民 満州・三竈島（サンソウトウ） →国策移民の前提として住民排除・抗日活動の弾圧 ⑦厳重処分 ⑧徴兵忌避 本部事件1910年</p>	<p>・地図 移民の国や地域別 ・南米・北米・ハワイ ・台湾の沖縄人 ・南洋諸島と委任統治領、フィリピン・ダバオ ・地図または表の作成。 本土への出稼ぎ 満州 ・満州移民の前提→抗日運動の弾圧、臨陣各殺（厳重処分） ・三竈島への移民の前提→抗日勢力の虐殺、島民の当該逃亡など 移民と徴兵忌避（証言がほしい） ・1940. 2. 27「軍部関係思想要注者…」（渡航者に兵役忌避あり） ・棄民となった移民者・出稼ぎ者の証言を展示（） ※上記、提供</p>	<p>第1と第2展示室の間のニュートラルゾーンに、サイパン戦のコーナーを作りたい。 理由は、①サイパン陥落で敗戦は必至となったのにもかかわらず、日本は戦争を継続した、②沖縄戦が現実味を帯び、戦闘部隊が配備された、③サイパン後、米英の残虐性や、捕虜になる前に潔く自決せよという宣伝が徹底された。④沖縄出身者が多く巻き込まれた。</p> <p>モニターが多数あるので、整理、場所の再検討。 当時のニュース映像を使っていて、見てわかりやすい。活用したい。</p>

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
			⑨植民地での皇民化政策 (■)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文：植民地・占領地での皇民化政策（現行）</li> <li>・文：アジアでの神社の建立 写；マニラ神社・ロタ島</li> <li>・文：創氏改名 写；創氏届け出風景 1940（昭和15）年2月11日 紀元節</li> <li>・文：「皇国臣民ノ誓詞」 写；皇国臣民ノ誓詞</li> <li>・文：日本語の強制 写；皇国臣民ノ誓詞</li> <li>・実物?：『王道楽土』（満州の写真集）1943年発行</li> <li>・実物?：朝鮮の戸籍（1，2点だけ残す■）</li> </ul> <p>現行展示物（青は削除候補■）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①移民先（満州と南洋諸島）の地図</li> <li>②写：婦人たちの耕作</li> <li>③写：第1回女子拓殖指導者講習会（茨木県内原訓練所）</li> <li>④写：宇琉磨国民学校の修学旅行記念写真</li> <li>⑤写：満蒙開拓団内原訓練所朝礼風景</li> <li>⑥写：沖縄県立拓南訓練所</li> <li>⑦写：南興精神綱領</li> <li>⑧写：南洋庁ロタ出張所</li> <li>⑨サトウキビの刈取り・ロタ島</li> <li>⑩リン鉱工場・ロタ島</li> <li>⑪ソンソン市街地・ロタ島</li> <li>⑫『アサヒグラフ』1938年6月発行</li> <li>⑬複写：昭和13年 満蒙開拓青少年義勇隊募集（複写）</li> <li>⑭『アサヒグラフ』1943年11月発行</li> </ul>	
	6	同化と異化のはざままで （沖縄の人々の模索） （■新設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自由民権運動（人頭税廃止運動）</li> <li>②謝花昇</li> <li>③人類館事件1903年</li> <li>④伊波普猷→郷土研究 沖縄学</li> <li>⑤太田朝敷</li> <li>⑥本土社会運動への参加 ⑦労働組合 ⑧教員運動</li> <li>⑨社会科学研究会（東京と沖縄）</li> <li>⑩沖縄教育労働者組合OIL 八重山教育労働者組合</li> <li>⑪宮城与徳（米移民、画家、ゾルゲ事件で獄死）</li> <li>⑫風俗改良</li> <li>⑬良妻賢母</li> </ul> <p>※地方で別の道を模索した女性たち（候補者）宮城文、久志芙紗子、金城芳子 「新しい女たち」 本土に出てきた女性たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・謝花昇の写真</li> <li>・人類館事件の写真</li> <li>・大田朝敷の写真と言葉「くしゃみまでも大和口で…」的な</li> <li>・八重山教育労働者組合の新聞記事</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治安維持法 弾圧（旧16－⑥・島田本104－107）</li> <li>・教員の運動への弾圧 本土と沖縄（旧16－③）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城与徳の写真・絵画→名護博物館</li> <li>・与徳の祖父の言葉「弱者いじめをするな」（『君たちの時代』143頁）</li> <li>・良妻賢母標語「妻は…」</li> </ul>	<p>■沖縄の人々は近代にどう向き合ったのか、同化志向、他方でこれでいいのだろうか模索と葛藤</p> <p>『宮城与徳誕生百年記念誌 基地たちの時代』 『県史近代』『県史女性史』→■さんに相談</p>

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	7 皇民化教育と同化政策 沖縄と植民地・占領地 (黒と黒)	①御真影 ②教育勅語 ③奉安殿 ④学校防空指針 (最も重要なのは御真影・教育勅語。2番目に児童) ⑤奉戴式の様子 ⑥佐敷尋常小学校火事で御真影が焼かれた新聞記事(1910年11月「琉球新報」「沖縄毎日」) ⑦第一大里尋常高等小学校で教育勅語と戊申詔書が盗難に遭う「県議会にて問題」新聞 ⑧「決戦教育の運営」指導要領 ⑨国定教科書「国語」「修身」など ⑩奉護で亡くなった殉職者(黒)	現展示物 物：「沖縄対話」文；皇民化政策・標準語励行運動 写：「民芸」1940(昭和15)年3月1日 写：県立一高女の大麻礼拝複製；方言札(複製)実物?；愛馬進軍歌実物?；『月刊民芸』1940年3月発行 実物?；大日本国防婦人会の女性 実物?；愛国婦人会入会証 1934年8月23日 実物?；愛国婦人会のタスキ 写：大阪朝日新聞(鹿児島・沖縄版)1940(昭和15)年1月12日 写：大阪朝日新聞(鹿児島・沖縄版)1939(昭和14)年8月26日 文：改姓改名 写：大阪朝日新聞(鹿児島・沖縄版)1936(昭和11)年8月13日 写：大阪朝日新聞(鹿児島・沖縄版)1939(昭和14)年2月8日 文：鳥居・神社の設置 写：大宜見村田港の鳥居 写：サイパン神社(戦前) 写：サイパン神社跡(現在) 実物?：戦前のサイパンの街並み(ガラパン)(『サイパン・テニアン・ロタ写真集 戦火に消えた先人の証し』1984年収録) 実物?：南洋群島における授業の風景(『昔のミクロネシア 南洋群島写真帖』収録)  候補黒 ・神社建設のための内務省からの指示書? ・満州神社建設に関する旅順市民大会開催の件(大正15年10月9日 アジ歴資料あり) ※在留邦人会が神社が欲しいと市民大会を開催し、内務省へ満州神社建設を要望している内容	黒・黒「教育勅語」の説明要 黒奉安殿の説明 どんな機能を果たしたのか 証言での事例 校長焼死殉職 御真影奉護  黒新聞は展示せずに、見出しと若干の記事内容をデザイン文字で展示してはどうだろうか。



大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	<p>8 沖縄からの移民と戦争（<span style="background-color: black; color: black;">      </span>）</p> <p>⑳のサイパン戦も挿入</p>	<p>①第1と第2展示室の間のニュートラルゾーンに、サイパン戦のコーナーをつくりたい</p> <p>②サイパン陥落で敗戦は必至となったにもかかわらず、日本は戦争を継続した</p> <p>③沖縄戦が現実を運び、戦闘部隊が配属された</p> <p>④サイパン後、米英軍の残虐性や捕虜になる前に潔く自決せよという宣伝が徹底された</p> <p>⑤沖縄出身者が多く巻き込まれた</p> <p><span style="background-color: black; color: black;">      </span> フィリピンも当然入ってくる。それでサイパン戦のこの部分はかなり大きな比重を持ってくる。それで1つの項目を作りたい</p> <p>スペースが必要なら分割も検討</p>	<p>現実展示物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文：沖縄移民・現地住民の犠牲</li> <li>・図：南洋諸島における沖縄県関係者の戦没者地図</li> <li>・写：収容された民間人1944（昭和19）年サイパンオレイア海岸</li> <li>・写：山中にかくれていたカナカ族1944（昭和19）年6月サイパン島</li> <li>・写：多くの日本人が身を投げた断崖 テニアン島カロリナス</li> </ul> <p>削除候補</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文：南洋粗糖の戦闘と沖縄出身移民</li> </ul> <p>写：製糖工場跡（ロタ） 写：日本軍の大砲（ロタ）  写：日本軍司令部壕跡（テニアン） 写：日本軍戦車の残骸（サイパン） 写：大砲の残骸（サイパン） 写：おきなわの塔（サイパン） 写：沖縄の塔（テニアン） 写：専習健児慰霊之塔（テニアン） 写：パラオ 写：沖縄の塔（ペリリュウ） 写：沖縄の塔（アンガル）  図：南洋諸島における沖縄県関係の犠牲者  実物？：『ミクロネシア 南洋紀行』1938年 実物？：『南洋興発株式会社』  複写：〔地図〕日本の委任統治領時代の地図（複写）  実物？：『新選詳図』 実物？：パラオ在南洋庁職員が戦後沖縄に引揚げた際に持参した債券  物：『昭和16年 南洋群島職員録』 物：『東風平町史』1999年3月発行 物：『戦時体験記録』（北谷町）1995年発行 物：『宜野座村誌』1962年3月発行 物：『佐敷町史』1999年11月発行 実物？：泉保尾モノ不足のために切り取られたテニアン警棒団旗 実物？：『南洋群島帰還者会誌』</p>	<p><span style="background-color: black; color: black;">      </span> 上記の4移民と出稼ぎと一つにできないか</p>





大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
				<p>           実物?；大東亜戦争割引国庫債券            実物?；戦時官吏服務令（沖縄県）1944年            実物?；支那事变行賞 賜金国庫債券（解説必要 証券でま            とめてはどうか■■■■）            実物?；陶磁器製のボタンとアルミ製の硬貨（解説必要■■■■）            実物?；金属回収（こんなものまで回収されたのか！ 事例紹介■■■■）            写；戦時保育所            写；翼賛壮年団、波之上にて「みそぎ」1942（昭和17）年            喜屋武村青年団作業班（残す候補→主室の家族（父の弟）の展示候補■■■■）            国民学校教育拓殖訓練            沖縄県第一回女子勤労挺身隊 1944（昭和19）年2月            実物?；防衛隊に支給された槍（刃）（ケース内）（残す候補→主室の家族（父）の展示候補■■■■）            実物?；防衛召集の通知1945年3月10日（ケース内）（残す候補→主室の家族（父）の展示候補■■■■）            実物?；軍への供出に関する文書1944年7月12日（ケース内）            実物?；軍への供出に関する文書1944年3月10日（ケース内）            実物?；『情報局編輯 週報』1945年6月発行            実物?；町常会提出事項（石垣町）（常会の解説■■■■）            実物?；徴兵保険証券（解説必要■■■■）            実物?；『週刊少国民』1945年7月発行（どういう経緯で発刊されたのか解説■■■■）            図＋文：沖縄の慰安所（削除■■■■）         </p>	
	11	<p>           子どもたちの戦時体制            （■■■■新設）         </p>	<p>           ①学校接收            ②勤労働員            ③陣地構築など            ④小学生の日常がどう変わったのか            ⑤竹槍訓練 運動会（短棒投げ） 遊び 双六            ※導入部分との整理            ⑥子ども（小6）の一日の行動（■■■■）         </p>	<p>           実物?；『ラヂオ子供のテキスト』1938年発行            実物?；『コドモ隣組』         </p> <p>           （導入部分に記した部分をここで■■■■）            小学生高学年：①学校の様子②家事手伝い③竹やり訓練④畑作業（ヒマ油・松脂などの採取）⑤共同畑作業⑥出征兵士の畑作業手伝い⑦陣地構築手伝い⑧村出身の出征兵士の見送り⑨対馬丸へ         </p>	■■■■導入部分は、できるだけさらっと通りながら疑問をなげかける工夫。ここで深く考える
	12	<p>           疎開と棄民            ■■■■            「疎開と戦時船舶の犠牲」と疎開は別項目に独立         </p>	<p>           ■■■■            ①疎開政策、②軍の方針、③棄民政策、④県外疎開、⑤九州と台湾、⑥学童疎開、⑦北部疎開、⑧宮古八重山疎開、⑨疎開先での生活            ■■■■            ①一般疎開            ②対馬丸とそれ以外の一般・学童疎開船            ③県の積極的な関わり            ■■■■            ①マラリア有病地帯への強制疎開         </p>	<p>           図：沖縄県学童疎開配置図            文；疎開と戦時船舶の犠牲            写；疎開先での戦後の生活（愛汗学園 宮崎県）            図；学童疎開先の献立表（熊本県日奈久町）            図；私タチノ一日（熊本県日奈久町）            文；県から各国民学校長への学童疎開準備に関する通達            北部疎開：証言多数あり。1人3行程度で、めくれる証言集ができないか            島田穀の方針→新聞紙面を活かす            北部疎開指示文書あり 島田穀→村長へ（大宜味村史）            大宜味村における避難小屋・避難民の取り扱い文書いくつかあり            ※避難小屋建設計画と予算関係が記載されているという「浜共同売店資料」が県図書館に存在？         </p>	<p>■■■■タッチパネルあり 活かす</p> <p>■■■■疎開の背景、日本軍の意図、県の関わりについて加える。県内疎開についてもここで加える</p>

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	13	防諜とスパイ取締り	①社会運動の弾圧 ②個人の言動の取締り監視 ③防諜 ④相互監視 ⑤密告 ⑥地域社会 ⑦国土隊 ⑧沖縄語禁止 ⑨久米島 ⑩第89連隊檄 ⑪警察文書（住民監視など） ⑫軍機保護法	実物?；防諜のポスター	
	14	10・10空襲	①宮古・八重山諸島の空襲も入れる ②徴用船撃沈被害 ③レイテ沖海戦 ④米軍が十・十空襲を行った理由	写；猛火に包まれた那覇港 写；燃えあがる那覇港の船団と軍需物資 写；辻原から見た那覇港 図；米軍の空撮資料をもとに作成された地図 図；第1波～第5波の被害 地図（削除し、日本軍基地、飛行場、軍隊がいたところが攻撃を受けたことがわかるよう、二枚の地図であらわしてはどうか( ) 写；10.10空襲前の那覇市街 写；空襲後の那覇市街 写；空襲で焼け野原となった那覇市 図＋キャプションプレート；台湾沖航空戦（ケース） 図＋キャプションプレート；レイテ沖海戦（ケース） 特攻隊の最初の出撃 沖縄戦への投入機数（ケース） 文；沖縄を変えた十・十空襲 山里将林（当時十九歳）『沖縄の慟哭』より（ケース） 文；空襲だ！空襲だ！ 山城朝健（当時三十歳）『沖縄の慟哭』より 文；読谷山の十・十空襲 神谷良子（当時十五歳） 読谷村史編さん室より 文；伊江島の十・十空襲 新島俊夫（当時二十三歳）『伊江島の戦中・戦後体験記録』より ①資料：「引揚並疎開の為の退職に関する件」（疎開時に退職は認めないという内容）八重山支庁長から各校長へ宛てた通知 1944年8月26日付 県平和祈念資料館所蔵（ ） ） パネル：10・10空襲 沖縄本島	※レイテ沖海戦と10・10空襲の関連性は書いていない（ ）
	15と16と17	①戦時船舶の犠牲（小）嘉進丸撃沈事件（ ） 小型船舶、漁船も追加、現行タッチパネルを利用 ②米軍上陸前夜の沖縄（小） 第32軍の配備 ③県民の戦場動員 軍と県の対立→島田知事によって対立解消 知事諭告（県民総武装）、防衛隊、義勇隊、青年学校、伊江島の訓練、軍と県の役割、4-5月期も戦場動員、国民抗戦必携（絵あり、一般住民の闘い方を示す） ④教員を退職させない通知（県資料館所蔵 ）			

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	18 学徒の動員 ( <span style="background-color: black; color: red;">新設</span> ) 護郷隊 ( <span style="background-color: black; color: red;">新規</span> )	①男女それぞれ独立させた展示 ②勤労働員 陣地構築など ③竹槍訓練 運動会 ④中学生、高等女学校生らの戦場動員 軍県3者覚書 ⑤戦場動員に利用された女性差別（女も国のために働ける、米軍の性暴力への恐怖）  ⑥護郷隊の編成 ⑦護郷隊の陣地構築と訓練の様子 ⑧護郷隊の戦争 ⑨護郷隊・炊事班・女子青年団（ <span style="background-color: black; color: black;"> </span> ）	①男女それぞれ独立させた展示 ②勤労働員 陣地構築など ③竹槍訓練 運動会 ④中学生、高等女学校生らの戦場動員 軍県3者覚書 ⑤戦場動員に利用された女性差別（女も国のために働ける、米軍の性暴力への恐怖）  ⑥護郷隊の編成 ⑦護郷隊の陣地構築と訓練の様子 ⑧護郷隊の戦争 ⑨護郷隊・炊事班・女子青年団（ <span style="background-color: black; color: black;"> </span> ）	
	19 <span style="background-color: black; color: black;"> </span> 日本軍の作戦と米軍の作戦  ※第1から第2 ニュートラルゾーン（第1展示室を含めて配置場所は再検討）	<span style="background-color: black; color: black;"> </span> ①日本軍の装備と作戦（旧㉓） ②日本軍 ③近衛上奏文 ④大本営の方針 ⑤第32軍の方針 ⑥日本軍の作戦（時間稼ぎ、南部撤退） ⑦住民対策 ⑧捕虜禁止（民間人も） ⑨国民抗戦必携 ⑩国土決戦教令 ⑪県知事諭告 ⑫県民総武装 ⑬米軍 ⑭アイスバーグ作戦 ⑮心理戦  <span style="background-color: black; color: black;"> </span> ①中南部の戦闘、北部での戦闘についての日本軍の戦術、など、地図、表などで具体的に標記 ②島嶼守備要領 ③北部での遊撃戦とその背景となる教令（国内遊撃戦の参考） ④住民対策（島嶼守備決戦教令、上陸防禦教令）	現展示 文；日本軍の装備と作戦 文；戦陣訓（第1～第2展示室間） 写；日本軍の竹製オトリ飛行機、日本軍の板製オトリ戦車 写；民事ハンドブック（米海軍作戦本部作成） 写；水陸両用戦車で伊江島に向って押し寄せる米軍の上陸部隊、 写；嘉手納飛行場に並ぶC-54輸送機 写；水陸両用戦車で伊江島に向って押し寄せる米軍の上陸部隊 4月16日嘉手納飛行場に並ぶC-54輸送機 文；訓示（昭和19年8月31日 牛島満） 上奏文（昭和20年2月14日 近衛文麿）	上奏文（昭和20年2月14日 近衛文麿） ※解説と上層文の背景、当時の国際情勢1944年の戦没者数を併記。「もう一度戦果をあげてから」⇒沖縄、広島、長崎原爆、各都市への空襲解説が必要 <span style="background-color: black; color: black;"> </span> 日本軍の特攻兵器の写真展示（マルレ、震洋、桜花）（ <span style="background-color: black; color: black;"> </span> ） 文；米軍の装備と作戦（第2展示室主室のビデオで説明しては <span style="background-color: black; color: black;"> </span> ）

赤字は委員及び意見、青字は現展示室にあるもの、緑字はノムラ素案

大項目		中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. 鉄の暴風シアター	0	鉄の暴風 (現在の副室)	住民犠牲の諸相→	現展示： ・大型スクリーンモニター「沖縄戦の戦闘経緯」 ・サブモニター 「慶良間諸島・沖縄本島上陸」 「本島北部・伊江島の戦闘」 「本島中部・首里地区」 「本島南部」 「宮古・八重山、その他の離島の戦闘」	・観覧場所、座席の整備 通行人はその背後を通るように 時間短縮 戦闘映像と体験者証言映像も ・サブモニター前にも座席は？ ・地図をもう少し小さく作り直して、説明なども入れるか？ どのような技術的工夫が可能か？ ・地図と体験者個人の避難ルート、証言などを組み合わせ 平和学習アーカイブの活用  大型スクリーンの位置を2-7か2-1の壁に移動して、映像を見ている人の前を、他の人が通らなくてすむようにする。スクリーンの高さをもっと下げる。しかし、長時間座りっぱなしの人がいると、他の人が見られないので、浅い腰かけやバーを設置するなども考える。 模型地図は暗くて見えづらいので撤収する。 空いたスペースにパネルを設置して、地域ごとの地図と特徴を展示する  米軍の激しい砲爆撃の映像は主室のビデオで見られるので、あれば、米軍を包囲した米艦船の配置図や偵察機と連携した艦砲射撃など、米軍がどのように砲爆撃を行ったかを示したい。
2. 住民犠牲の諸相	1	日本軍の作戦	・多大な住民犠牲を出した日本軍の作戦・時間稼ぎ、南部撤退（命令） ・民間人を巻き込んだ海軍根拠地帯 ・牛島満最後の命令	文；住民犠牲の諸相 写；屋我地島から運天港へ向け編隊飛行する米軍グラマン機 4月4日 写；攻撃準備のための偵察や撮影を行う米軍飛行機（通称トンボと呼ばれ恐れられた）4月	住民犠牲の諸相をテーマにしながらも日本軍の加害行為については整理必要 場所は再検討、1項目あたりのスペースは、第1展示室よりかなり小さくなる見込み



大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点	
	2	根こそぎ戦場動員 （戦場に動員されて犠牲になった人々：新設）	<ul style="list-style-type: none"><li>・弾雨の中の運搬、斬り込み</li><li>・捕虜を許さない</li><li>・投降阻止、スパイ視虐殺</li><li>・防衛隊</li><li>・義勇隊</li><li>・米軍上陸下での動員（5月末まで）砲爆撃の中での物資運搬、道案内、斬り込み</li><li>・海軍根拠地隊－多数の民間人を巻き添え</li><li>・沖縄出身初年兵</li><li>・本土兵からの差別虐待</li><li>・入口の見張り</li><li>・糸満の水タンク、県庁の門柱 など説明文</li><li>・沖縄戦の戦闘経過と住民の証言映像を組み合わせたビデオを制作する。</li><li>・平和の礎とどのように関係づけるか</li></ul>	義勇隊をみていた山川警察官証言（ <span style="background-color: black; color: black;">          </span> ）  現展示物： 写；天文学的数量の砲弾が撃ち込まれ廃墟と化した首里城 5月29日 写；兼久海岸から嘉手納の飛行場へ向け上陸する米軍 4月1日 写；サトウキビ畑に潜む日本兵に煙幕弾や小銃弾を撃ち込む米兵 6月13日 写；火炎放射器で攻撃する米兵 5月16日 米軍は火力兵器を多用し日本兵のかくれる民家を焼き払った 4月13日 図；「集団自決」の発生場所（キャプションなし） 地図 実物？；集団死が行われた場所の近くで見つかった日用品 実物？；球軍会報 1945（昭和20）年4月9日 実物；『沖縄県史』1974年3月31日発行：『中城村史』1990年3月31日発行：『宜野湾市史』1982年11月30日発行：『座間味村史』1989年7月10日発行：『西原町史』1987年3月31日発行：『浦添市史』1984年3月31日発行： 実物？；鹿山文書（複製）（久米島部隊指揮官が村長らに出した命令書）1945年6月15日 実物？；遺骨収集等で発見された遺留品 複製；具志川村警防団連絡書類（複製） 実物？；集団死が行われた場所の近くで見つかった道具類	<span style="background-color: black; color: black;">          </span>  WHYの問いは、タッチパネルではなく、パネルに入りたい。自分で考えてみて、といっても難しいので、大まかにいくつかヒントを挙げるとか、解説をモニターで流すなどしてはどうか。訪れた児童/生徒がメモして持ち帰れるものになるとよい。
	3	日本軍による住民虐殺・迫害	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民虐殺（地域・時期別、特徴を整理）</li><li>・虐殺の要因</li><li>・壕追い出し、食料強奪</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・住民に対して投降を許さない日本軍のピラ（資料館所蔵？）</li></ul> ここに入れる？（ <span style="background-color: black; color: black;">          </span> ） <ul style="list-style-type: none"><li>・乳幼児虐殺</li><li>・一家全滅</li></ul>	文；壕追い出し 文；スパイ視虐殺 文；壕追い出し 旧真壁村真栄平 金城トミ（当時十三歳）『平和への証言』沖縄平和祈念館ガイドブックより抜粋 文；スパイ呼ばわり西原町 大城純勝『15年戦争の証言』沖縄県総務部知事公室平和推進課発行より 文；障害者の沖縄戦 何度もスパイ容疑をかけられた 津嘉山 大城永三郎 障害者の沖縄戦 直撃弾で生き埋めになった 本部 大城守太郎 『南風原が語る沖縄戦』南風原町史第三巻より 写；琉球新報 1999年9月10日 私は見た／伊是名島の虐殺 写；沖縄タイムス 1994年8月15日／旧日本軍が住民虐殺 写；琉球新報 1997年6月12日 生き残ってもつらい／女子青年団の悲劇 写；琉球新報 1992年6月24日 遺骨はまだ現場に？／スパイ容疑で虐殺の「上原トミさん」 写；琉球新報 1995 年2月12日 「地獄の光景だった」／現場にいた米兵の手紙 写；琉球新報 1995年2月12日 “自爆”の号令 9人即死／具志川市の「集団自決」 写；琉球新報 1997年6月13日 命運分けた投降の誘い 写；沖縄タイムス 1995年11月10日 処刑の寸前、命拾い／沖縄戦でスパイ容疑の大城さん	<span style="background-color: black; color: black;">          </span>  スペースを取って詳しく  【Whyタッチパネル】 なぜと考えてもらうテーマ ほかにもパネルにするには多すぎる材料を入れて調べてもらうためのタッチパネルもあってよい（たとえば戦時遭難船舶のような）。  事務局で整理。多いのでは。特徴的な証言を3つ、4つに絞り込む 新聞は活用しない

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
				文；乳幼児虐殺／文；幼児の虐殺 中城村 儀間トヨ（当時十九歳） 『平和への証言』 沖縄平和祈念館ガイドブックより抜粋／文；一家全滅／写；一家全滅の犠牲者名を刻んだ碑 糸満市米須 写；今も残る一家全滅の屋敷跡 糸満市国吉／文；一家の全滅 西原町 大城純勝 『15年戦争の証言』 沖縄県総務部知事公室平和推進課発行より抜粋文；弟が日本兵に殺される上原仁太郎 『沖縄の慟哭』 那覇市より	
	4	北部疎開 （⑫が生み出した犠牲）	・棄民 ・捕虜を許さない ・警察の役割 ・住民、避難民の監視	文；敗残兵が食糧を強奪 玉城靖成（当時十歳） 『沖縄の慟哭』 市民の戦時・戦後体験記 那覇市史資料編第三巻より抜粋 文；避難中の食糧 仲尾松敏、宮城清貞（当時十六歳） 『語りつぐ戦争第一集』 市民の戦時・戦後体験 名護市 一九八二 より 模型：ツワブキ・イモ	
	5	収容所/収容地区 （新設）	・北部疎開 ・棄民政策 ・警察の役割 ・米軍に保護された者を殺害 米軍＝軍事優先 移動繰り返し ・日米両軍、両政府の軍事優先政策の犠牲 ・飢えとマラリア ・基地建設優先→農業もできない狭い土地へ ・戦争孤児、学校の再開などをここに入れるか？	民間人収容地区：収容地区の様子 暮らし・墓場等多くの写真あり 写；元宜野座米軍野戦病院の集団埋葬地 1983（昭和58）年 写；収骨作業状況 1983年（昭和58）年 ※戦没者の名前・本籍・年齢が刻まれた石を展示←宜野座・名護博物館所蔵 ※「瀬高墓地台帳」「出征死亡者名簿 汀間市」の展示等々 ※「身寄り求む」新聞での孤児名前公表	収容所、収容地区の問題です。ここで多くの犠牲が出ているので、沖縄戦における犠牲の問題として収容所を取り上げることが必要です。 戦後は戦後なりの位置づけで収容所を展示する必要があります。こちらでも沖縄戦における住民被害として展示を考えたい。ある程度固まった段階で戦後部会と調整をして、あまり重なるようだったらどうするのかということを協議したい
	6	戦争マラリア	・宮古八重山 ・マラリア有病地への強制退去		※本島/収容所は4, 5で扱うか？（ <input type="checkbox"/> ）
	7	「集団自決」「強制集団死」	・日本兵、兵事主任が住民へ手りゅう弾を手渡す ・ありとあらゆる道具 ・在郷軍人が煽った発言	写；沖縄タイムス 1998年6月21日 集団「自決」の実態後世へ／沖縄市美里区の証言集発行 文；日本軍の強制による集団死 写；沖縄タイムス 1997年6月25日 3家族、12人が「集団自決」／恩納村安富祖の壕跡 写；琉球新報 1995年7月3日 目の前で住民が集団自決 渡嘉敷の悲劇証言 写；集団死の現場から米軍に保護された人々 渡嘉敷島 4月1日 写；集団死をはかった時の傷跡が残る 図；集団死を伝える碑 座間味島 写；集団死の現場から救出された幼児 渡嘉敷島 3月29日 文；手榴弾とカミソリで玉砕 座間味村 宮里美恵子 『15年戦争の証言』 沖縄県総務部知事公室平和推進課発行より抜粋 文；集団自決 殺してくれと懇願する男性 座間味村 宮村文子 『15年戦争の証言』 沖縄県総務部知事公室平和推進課発行より抜粋	ここに【Whyタッチパネル なぜ集団自決がおきたのか？】 民間人も死を強いられたのはなぜ？

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	8 障がい者 (新設)	・身体障がい者 精神障がい者 戦争が作りだす障がい者		
	9 ハンセン病患者 (新設)	・膨れ上がる愛楽園患者数グラフ 愛楽園 南静園 強制収容		
	10 軍隊による性暴力 (新設)	・日本軍慰安所 ・強姦などの性暴力 ・慰安婦（沖縄人・本土、朝鮮人） ・米軍の性暴力		
	11 心の傷 (新設)	・戦闘神経症 ・PTSD ・戦後も続く症状		<p>「こころの傷」、この間研究が進んでいるところです。「住民の諸相」としてどういう項目立てがいいのかということは改めて考えてみたい。</p> <p>戦闘神経症 戦後の状況－具体例を入れたい。米兵の例もここに入れるか？ 【Whyタッチパネル なぜ日本軍は沖縄の人たちをスパイ視し、虐殺や迫害をしたのだろうか？】 なぜ……結論を提示するのではなく、考える素材、資料、視点・論点を提供する。</p> <p>→新しい新聞記事なども追加</p>
	12 朝鮮人の動員と犠牲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動員された朝鮮人</li> <li>・兵士</li> <li>・軍夫</li> <li>・船舶</li> <li>・日本軍「慰安婦」</li> <li>・虐殺</li> <li>・餓死</li> <li>・戦没時期、場所のデータ（竹内氏提供のデータで整理）</li> </ul>	文；朝鮮人の虐殺 写；捕虜収容所に運ばれる朝鮮人軍夫 阿嘉島 5月28日 文；朝鮮人軍夫 東村 金城政信 『15年戦争の証言』沖縄県総務部知事公室平和推進課発行より抜粋 ・本部町健堅にあった朝鮮人の墓 写真あり(県内2紙) ただし虐殺で死亡かどうかは確認 ・ペ・ボンギさんの写真と証言を載せられないか	<p>住民の犠牲とは別項目だが、続けて兵の視点から朝鮮人の虐殺・傷病兵の殺害は、第2展示室と第3展示室のニュートラルゾーンに、日本軍のコーナーをつくって取り上げたい。日本軍として送られてきた部隊の出身や経歴、証言など</p> <p>沖縄戦が始まる前からの虐待、暴力 について市町村史、生存者の手記からの証言を入れる            ※戦後、収容所を沖縄人、朝鮮人、日本人に分けてこと、報復については戦後の展示で</p> <p>慰安所の地図・慰安婦にされた女性たちの証言はこのコーナー？</p>
	13 日本軍兵士にとっての沖縄戦	斬り込み、夜襲、民間人の服、爆雷を抱えての戦車攻撃、事実上の特攻、捕虜を許されず命を粗末にされる兵士たち、傷病兵殺害、青酸カリ処置 国土決戦教令、戦闘指揮、戦陣訓	文；傷病兵の遺棄 写；野戦病院も地下壕に置かれた 徳之島 9月24日 文；傷病兵の遺棄 玉城伝造（初年兵 重症患者 当時二十歳）『南風原陸軍病院』 南風原町教育委員会より 文；青酸カリ処置 絵；傷病兵の遺棄・殺害など 日本兵の遺書（名護博物館）	<p>【Whyタッチパネル なぜ傷病兵が日本軍自らの手で殺されたのか？】</p> <p>【Whyタッチパネル 残酷な日本兵と親切的な日本兵 なぜその違いが生まれたのか？】</p>
	14 米軍兵士にとっての沖縄戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米軍の戦闘方法</li> <li>・無差別爆撃・砲撃その背景</li> <li>・米軍部隊の戦歴</li> <li>・親切的な米兵／無残な米兵</li> <li>・米兵の戦闘神経症</li> <li>・PTSD</li> <li>・お土産・文化財</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慰霊塔に設置された十字架</li> <li>・日の丸の返還</li> <li>・鐘の返還など</li> <li>・ワトキンスペーパー「軍政府高官の戦闘神経症の多発」</li> </ul> 文	【Whyタッチパネル 残酷な米兵と親切的な米兵】



大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
<b>3. 地域ごとの沖縄戦</b>  ※第2から第3のニュートラルゾーン 遺物ケースを1つなくして、スペースを広げる	1	北部	①山の中の戦争 ②敗残兵 ③飢餓・病気 ④御真影奉護壕 ⑤護郷隊 ⑥陸軍中野学校		
	2	中部	①北部疎開 ②美郷村字美里の「集団自決」「強制集団死」 ③チビチリガマの「集団自決」「強制集団死」 ④具志川村字具志川の「集団自決」「強制集団死」 ⑤基地建設しながらの沖縄戦 ⑥米軍の本土攻撃		
	3	南部	①ありとあらゆる戦争 地上戦の惨さ	無数の砲弾の跡（那覇市首里） 実物?；沖縄戦で使用された砲弾 写；犠牲となった住民（米軍の説明では砲撃による死となっている） 糸満市1945年6月21日 文；南部撤退時の命令	
	4	本島周辺離島及び北・南大東島	①日本軍がいた島といなかった島 ②粟国島 ③伊是名島・伊平屋島、久米島（久米島は⑬を主に）	大東島の飛行場建設図	
	5	宮古八重山	①戦争マラリア ②軍命によるマラリア地帯への強制退去 ③慰安所 ④植え、餓死 ⑤空襲 ⑥米軍捕虜虐殺 ⑦離島残置謀者 ⑧山下虎雄（酒井清） 波照間島 忘勿石	写；村民にマラリア蚊駆除のためのDDTの散布方法を指導する米兵 5月6日 文；戦争マラリアの被害 写；収容所での埋葬 6月16日 図；八重山諸島の住民の退去先一覧 図；マラリア有病地域と住民の避難場所（キャプションなし） 地図 文；〔証言〕ヤキー（マラリア）の島 八重山 東風平町野原重蔵 『15年戦争の証言』沖縄県総務部知事公室平和推進課	
	6	命を救った人たち			

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	7 沖縄戦を生き抜いた人たち			
	8 ガマと沖縄戦	ガマの概説 いま見られるガマ アブチラガマを3D映像で見せる工夫 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>  墓もここへ	図；アブチラガマ（糸数壕）平面図 文；〔証言〕負傷兵の最後 国吉昇（当時十七歳） 『糸数アブチラガマ（糸数壕）調査資料』沖縄県玉城村発行より 文；〔証言〕壕の中の陸軍病院 ひめゆり学徒隊 本村つる 文；〔証言〕ガラビ壕・女子学徒看護隊 名嘉満子（仮名）証言・沖縄戦「戦場の光景」石原昌家著より抜粋 写；米軍の攻撃で破壊された亀甲墓 4月1日 写；前線からわずか50メートルしか離れていない亀甲墓の入口で置き去りにされたまま奇跡的に助かった姉妹 4月23日 写；墓の中の厨子甕を調べる米海軍のカメラマン 5月10日 文；ガマの成り立ち 図＋文；ガマの特徴 写；日本軍や住民がたてこもっていたガマに入る米兵 5月4日 写；日本兵の潜む壕に手提げ弾を投げ込む米兵 6月12日 写；日本軍を掃討するため、火炎放射器を使って壕を攻撃する米軍 6月25日 写；米軍に投降する住民 この壕には11人の避難民がいた 4月4日	

赤字は委員及び意見、青字は現展示室にあるもの、緑字はノムラ素案

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. 地獄の戦場	1 避難民と日本兵	・ 子どもの口をふさぐ親（ジオラマ） ・ 家族と入り口をにらむ日本兵（ジオラマ） ・ 奥に多くの避難民がいる絵	解説を工夫して入れる	ガマの中の状況がわかりにくい、説明パネルを置く場所もない（暗くて読めない）ため、水が落ちる音や戦車の音を流しているスピーカーで、何かおきに、短い説明を流してはどうか。
	2 投降ビラと日本兵	・ 投降ビラを取ろうとする子どもに対し、大人が引き留めている。その奥に日本兵がにらむ光景（切り絵？）	解説を工夫して入れる	「おぎゃあ、おぎゃあ」「赤ん坊を泣かすな」といった会話の再現はわざとらしいので、どういう場面かだけでいい。
	3 女子学徒と青酸カリの日本兵	・ ジオラマ ・ 奥にベッドに寝かされた傷病兵の絵	解説を工夫して入れる	日本兵の顔の向きを再検討すべき。色褪せた絵は描き直しの必要あり 子どもの泣き声、投降を許さない日本兵の声、手術中の怒号とうめきなどの音声を効果的に使えないか
	4 作戦会議・斬り込み隊	・ 傷病兵の奥に切り絵？で表現	解説を工夫して入れる	ジオラマ内部に説明を入れる
	5 死の彷徨			子どもの着物は、当時の写真や持ち主がわかっているもので証言を紹介できないか。写真や持ち主がわかっている物と証言をセットで紹介して、顔の見える展示を増やしたい。 例：南風原文化センターの展示
2. 沖縄戦とはなんだったのか  第3から第4のニュートラルゾーン 水の入った水筒を弾痕の残る水筒と交代する。場所も「死の彷徨」箇所へ置くとスペースがとれる	1 沖縄の基地からの本土攻撃（新設）			
	2 もし本土決戦がおこなわれていたら？（新設）	本土決戦準備 九州、高知、相模湾（湘南海岸）、九十九里浜 国民義勇戦闘隊 松代大本営、上伊那（登戸研究所疎開地） 沖縄だけの話ではない 本土でも起ころうとしていた	司馬遼太郎「米軍が海岸から上陸してきたら、住民もろともひき殺しながら前進せよ、と上司から言われた」	
	3 県民の戦没者（新設）	・ 平和の礎のデータから		平和の礎のデータに基づき、戦没場所（県内～海外まで）、戦没時期 南部撤退後が多いこと 必要な説明 と 地図にまとめる 台湾人についての解説は？（朝鮮人は第2展示室でまとめる？）
	4 戦後処理（新設）	遺骨収集、追悼、慰霊碑 平和の礎 援護法 不発弾 戦争遺跡 教科書検定 県議会決議1982+2007 【Whyタッチパネル 戦没者のおかげで今日の平和があるのだろうか？】	・ 不発弾	
	5 沖縄戦のまとめ	・ 沖縄戦はいつ始まり、いつ終わったのか ・ どのような戦いだったのか ・ 米軍基地の存在をどうみるか		ニュートラルゾーンの壁面に、米軍の目的（本土攻撃の基地を確保する）や作戦、戦闘に参加した米兵の実態、沖縄戦の戦没者のまとめを展示する。 もし「むすびの言葉」の場所が移動になって、スペースが空くなら、そこにどちらかを移せるが、1階に移すと目立たないし、戦後の展示の後に適当なところはなさそう。 【Whyタッチパネル 沖縄戦は避けられなかったのか？】ターニングポイントをあげて考える 沖縄戦は避けられなかったのか、もし仮に沖縄戦があったとしても犠牲者を減らす方法はなかったのか？

赤字は委員及び意見、青字は現展示室にあるもの、緑字はノムラ素案

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. 住民の見た沖縄戦	1	証言	分類の再編		証言の部屋にタッチパネルがたくさんあるのはよい。同時に紙も残す（現在34＋英文2） 分類を整理 現在の地域ごとも残す（数を減らす）。そのほかに、たとえば、小学生 中学生・高等女学校（男子・女子） 青年（10代男子・女子） 子ども・赤ん坊（見ていた人の証言可） 母と子 おじい おばあ ハンセン病患者 障がい者 命を救った人 防衛隊員 義勇隊員（男女） 県外疎開（大人、子ども） 県内（北部）疎開 など 来館者がココ見てみようと思うような見出しを検討する。

【資料3－2】2F 第5室「太平洋の要石（仮題）」展示項目リスト（素案）

■私案：※沖縄の平和問題は沖縄だけでなく日本全国の問題だと気づく展示ができないか  
※日本政府、特に日本政府の方針で沖縄の位置づけが構造的差別の下に置かれていることがわかる展示（文面等で）ができないか  
例えば、①吉田茂首相（サンフランシスコ講和条約）と沖縄、②岸信介と沖縄、③池田勇人と沖縄、佐藤栄作と沖縄（「沖縄の基地は日米両軍にとって極東安全のために極めて重要」「基地自由使用权、日本の防衛力増強…」、その後の小泉・橋本・安倍など）など、その環境の下に沖縄で人権差別・被害が起きているなど。さらに密約問題も。  
第4回部会意見：「太平洋の要石」という展示室の名称は変更した方がいいのではないか。米軍の視線だけでなく沖縄の人々からの視点も取り入れた名称はできないか。

大項目	中項目	関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. アメリカ世 —占領下の沖縄—	0 —導入展示— なぜ沖縄には基地が多いんだろう？  導入部分は必要か？	①なぜ沖縄はこんなにも基地が多いんだろう？ ・日本全国の基地所在地と沖縄の米軍基地及び自衛隊基地 ②東アジアの情勢と沖縄の位置づけ ・朝鮮戦争出撃の島 ・ベトナム戦争「悪魔の島」と呼ばれた沖縄 ・今も昔も変わらない南鎖の砦・沖縄	①本土と沖縄の基地配置図・面積比較表	■ ※戦前戦中時代部会でも民間人収容地区を取り上げます。その場合、マラリア・栄養失調でなくなる人、埋葬の様子など、特に人権のない状態を表す展示内容となります。若干の重複は構わないという考えでアイデアを出していただき、あとで整理、項目分けするというのはいかがでしょうか。
	1 収容所・復興期の社会・生活  ↓ 時期的に早い？	①本土攻略のための沖縄島要塞化計画 ②一つの屋敷内に3～4家族の暮らし ③多いところで一つの屋敷に200人収容 ④マラリア・栄養失調 ⑤軍病院・診療所 ⑥配給所 ⑦戦争孤児・孤老 ⑧人権のないくらし ⑨女性への性暴力事件 ⑩学校 ⇒45年4月6日高江洲小学校、5月7日石川学園（城前 初等学校）開校 次項との関係 ⑪軍作業 ⑫戦果 ⑬沖縄諮詢会 ⑭引揚げ ⑮芸能・カンカラ三線 ⑯収容地区から居住地へ ⑰帰郷と離散（県史・34頁） ⑱物々交換の暮らし ⑲密貿易・闇市時代	・沖縄島に関する米陸海軍担当図（1945年7月23日決定） ・「1946年11月 宿直日誌 伊江村役場」→伊江村民が島に 戻ることが許されず、旧久志村久志区のはずれで2年間暮ら していたと時の日誌記録 ・軍病院の写真 ・食料配給所の写真 ・コザ孤児院の写真と証言 ・玉城村百名の孤児院 ・民間人の搜索依頼文書→民間人収容地区間を手紙（郵便） で搜索している様子（与那城南風原区資料） ・選挙の様子→写真あり ・戦後・戦前の男女人口動態グラフ ・写：沖縄諮詢会集合写真 ・図：収容所の市の誕生 写：CIV 写：PW  ※【資料2】を参照	■証言を展示で、当時の様子がわかるように。  ●「復興」ではなく「復興のはじまり」ではどうか。 ●中項目2との整理が必要。占領期の学校と学制下の学校で分けるなど。 ●沖縄県史の第2章（初期「自治」のスタート）から第5章（長期保有の決定）をまとめられないか。特に「住民の移動」に着目したストーリーはどうか。
	2 1950年代の政治状況（恒久的基地建設と住民）  恒久基地化と住民の闘い（県史・118頁）  1940年代と50年代が混ざっているため整理が必要では？あるいは分野別に整理するか？	①東アジアの情勢と沖縄（冷戦構造含む） ②基地建設 45年 ③軍作業・雇用の始まり ⇒前項の軍作業と分ける？ ④日円時代の始まりからドルへ 48～58年 ⑤サンフランシスコ講和条約 52年発効 ⑥天皇メッセージ 47年 ⑦豚がやってきた 48年 ⑧ララ物資 47年 ⑩スクラップ拾いからサルベージまで ⑪高等弁務官 57年 ⑫民間行政の変遷 →沖縄民政府から琉球政府まで⇒前項の 沖縄諮詢会からのつながりが必要では？ ⑬プライス勧告 ⑭戦後教育の始まりと定着（県史・90頁）⇒前項の教育との 関係 ⑮言論統制—占領下での自由と統制（県史・105頁） ⑯基地の拡充と海兵隊移転（県史・161頁） ⑰核配備の開始（県史・166頁） ⑱基地建設と島ぐるみ闘争（県史・171頁） ⑲銃剣とブルトーザー（四大土地闘争を中心に）	文：サンフランシスコ講和条約 写：天皇の対米メッセージ関係の米外交文書 図：大統領行政命令による米国の統治系統図 図：琉球列島米国民政府組織図 写：プライス勧告と勧告への反論 書籍：『守礼の光』1970年10月発行 写：米国に向けて出発する留学生たち 文：渡航の制限 写：渡航自由化署名運動 写：市議会で発言する瀬長亀次郎那覇市長 文：瀬長市政への圧迫 写：サンマ・友利移送事件裁判 文：サンマ・友利裁判移送 文：燃えあがる復帰運動 文：初期の復帰運動 写：日本復帰の是非を住民が表明した群島知事選挙 写：対日講和会議にむけ、日本復帰署名運動が展開された 文：対日講和会議 写：沖永良部島と与論島の復帰を祝う 写：奄美復帰  ※【資料2】を参照	■証言を展示で、当時の様子がわかるように。  ●諮詢会、民政府のように行政体・統治機構の変化を説明する。 ●行政体の変化、米軍の政局・国際状況と住民の生活のようなものに分けて、関連付けていく。米軍の政策によって住民の生活が左右されていく様子を表せられないか。 ●ここではアメリカの政策や政治的なことを中心に伝える。次項（3復帰運動）で沖縄住民の動きを説明すると中項目の意図がはっきりするのではないか。 ●日本の基地問題と海兵隊移駐はセットで説明する。



大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	3	復帰運動、米軍の事件事故 ベトナム戦争	①復帰運動 ②ベトナム戦争の影響と復帰運動の高揚（県史・244頁）→もしくはベトナム戦争と沖縄（県史・311頁） ③沖縄は日本の「捨て石・消耗品」（県史6頁）→構造的差別 ④本土の高度成長を支えたドル経済 ⑤沖縄返還合意に向けた最終交渉（県史・287頁） ⑥教公二法闘争と復帰運動の質的变化（県史・305頁） ⑥出版の自由と渡航の自由（県史・297頁） ⑦主席公選 ⑧「建白書」と国会 ⑤復帰前の米軍の事件事故（女性被害は別中項目） ⑥復帰後の米軍の事件事故（女性被害は別中項目）	文：講話後の復帰運動 文：祖国復帰協議会の結成 写：沖縄県復帰協議会結成大会 写：「沖縄―東京間沖縄返還貫徹大行進」東京での行進 写：琉球新報1967（昭和52）年11月12日 文：池田・ケネディ会談 写：北緯27度線上でおこなわれた4・28海上集会 映像：「返還交渉の経緯」 写：教公二法の強行採決を阻止する断食請願 写：沖縄返還協定への抗議ゼネスト 写：沖縄返還調印式 映像：「返還協定調印と批准前後の復帰運動」 写真：完全復帰を要求する県民総決起大会5.19ゼネスト 実物：5.19ゼネストを呼びかける横幕 実物：復帰を訴える復帰協のポスター（キャプション無） 文書：建議書 等々  ①伊江島LCT爆弾爆発事件 ②読谷村上空を飛行中の米軍機からガソリン補助タンクが落下、1人が死亡し3人が重軽傷 ③那覇市の民家に米軍戦闘機からガソリンタンクが落下、民家が全焼し親子ら5人が死亡 ④宮森小学校ジェット機墜落事故 ⑤那覇市で男子中学生が信号無視の米軍トラックにひかれ死亡。→米兵に無罪判決 ※米軍基地から派生する事件・事故の年表は展示中  ※【資料2】を参照	女性の性暴力被害については別中項目  ●日本との関わりが入れられないか。日本への留学や日本企業の資本投下、など。
2. 基地の町	1	市場			●中項目3「復帰運動」の展示を充実させるために撤去する方向がいいのではないか。
	2	アニーパイル国際劇場			●沖縄芝居など文化復興の面も見せられないか。 ●劇場が多様な役割（芝居、遺族会の集会、琉米親善）を果たした場であることがわかる映像を流したらどうか。
	3	スーベニアショップ			●この建物がどういうものか、その時代状況などを簡単に説明するパネルなどは必要。
	4	テラー			
	5	金城商店			
	6	Aサインバー			
	7	証言コーナー			●証言などじっくり見るような映像を流す。 ●中項目2「国際劇場」では見学の流れでちょっと立ち止まってみるような映像にするように、ここの役割を分ける。

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
3. ヤマト世 ー 復帰後の沖縄ー	1	復帰後の社会	①政府の沖縄振興策と県経済の変遷 ②「開発庁」方式の功罪（県史・479頁） ③変わらぬ沖縄の米軍基地（県史・ ④SACO合意後の混迷（県史・ ⑤基地労働者の大量解雇と阻止闘争（県史・ ⑥基地存続と自衛隊配備（県史・437頁） ⑦沖縄返還後の米軍基地（県史・442頁） ⑧密約問題		●復帰そのものを問うようにする。 ●復帰の迎え方、返還協定や屋良建議書などもこの項目がいいのではないか。 ●日米地位協定を入れると構造的暴力が分かりやすくなるのではないか。 ●復帰によって何が変わって何が変わらなかったのか、などが説明できるといい。
	2	1995～1996年の基地問題と政治の動き	①普天間飛行場の返還から移設 →辺野古新基地建設 ②名護市民投票・県民投票 →分断された地域と暮らし		
	3	現在の住民の生活、社会文化（新規？）	①基地と隣り合わせの暮らし ②2001年9月11日、ニューヨークテロ事件と沖縄 →修学旅行の中止など 観光業の大打撃 ③南西諸島への自衛隊配備と暮らし →宮古・石垣・与那国島への自衛隊配備と勝連半島ミサイル配備、沖縄銭期における自衛隊強化策 ④東アジア情勢に翻弄される沖縄 →尖閣諸島問題、台湾有事問題 ⑤米軍基地の土地問題 →土地開発・経済振興を妨げる基地・自立経済できない構造的差別社会 ⑥米軍基地による環境問題 →PFOS・PFAS ⑦基地経済振興と基地のない経済振興比較表 ⑧辺野古新基地建設問題 ⑨SACO合意後の混迷（県史・512頁） ⑩減らない基地負担と日米地位協定の改定 ⑪沖縄国大学ヘリ墜落事故 ⑫米軍基地返還時の問題「日米地位協定の壁」  ※沖縄戦傷跡の遺る暮らし 戦争孤児・貧困・女性		※米軍基地問題は全国の問題として考えてほしいという提起ができないか ※県全体の経済が底上げされるなかで、経済格差が広がる暮らし、そこには基地の土地問題が大きいのしかかる

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	4	おびやかされ続ける女性の人権 ( )	・1995年 少女暴行事件で発起した県民大会の様子	<p>年表より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1945年8月 美里村で女性が子供をおぶったまま3人の米兵に拉致される。母子は2年後に白骨死体で発見</li> <li>※1945年から46年の期間に米兵によるレイプ事件、強盗、殺人事件などが多発した。</li> <li>「米軍人に依る婦女子強姦事件に対する住民の指導に関する件」(1947年3月27日)(県史・50頁)</li> <li>・1947年8月 女性がフィリピン兵に刺殺される。</li> <li>・嘉手納村内で石川氏に住む女の子(6歳)が米兵に殺害される。</li> <li>・コザ市で米兵がひき逃げ 少女2人が死亡 2人が負傷</li> <li>・1966年 金武村で女性が米軍逃走兵に殺害される。</li> <li>・1967年 金武村で女性が米兵に殺害される。</li> <li>・1968年 浦添村の米軍兵舎でメイドが殺害される。</li> <li>・1968年 女性が読谷村の自宅前の路上で米兵に暴行され殺害される。</li> <li>・1969年 コザ市で女性が米兵に殺害される。</li> <li>・1970年 具志川村で下校途中の女子高生が米兵にナイフで刺される。</li> <li>・1971年 女性が金武の自宅で刺殺される。</li> <li>・1972年 北中城村で女性が米兵に殺害される。→1995年の少女性暴行事件→2023年12月の少女性暴力事件など昨今の状況まで展示</li> </ul>	
<p>4. 平和な未来を目指して</p> <p>※全体を締めくくる展示は必要か？</p> <p>※「展示むすびのことば」の検討</p>	1				



大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
1. 「平和の礎」の刻銘者に 着目したコーナー	1	ー導入展示ー 地獄の戦場と化した沖縄	・「捨て石作戦」としての沖縄戦とは？ ・沖縄戦の戦闘経緯と状況 ・地獄の戦場では何があったのか ・沖縄戦で失われた多くの命 等		※「不発弾」についてはどうするか？
	2	20万人の命に想いを馳せる ～礎～	・礎とは？ 国籍や民間人、軍人の区別なく、全ての沖縄戦犠牲者の名前を刻む「礎」の理念やそこに込められた想いについて ※地域ごとの犠牲者数等の礎に関連するデータ等を提供する必要があるか？		
	3	礎に刻まれたライフヒストリーを紐解く	・礎に名前を刻まれた特定の人をクローズアップし、その方及びその家族、関わりのある人々がどのような経緯でどのような体験をし、どのように生きたのかを紐解く。		・定期的に展示替えをすることを想定
2. 今日の、そして世界の “戦争と平和、を考える	1	平和って何？	・台湾と沖縄、韓国と広島の平和を考えるモヤモヤ議論（「平和への思い交流・発信・継承事業」での各国学生の討論など）		
	2	いまの沖縄・日本は平和？	・沖縄の平和に関する問題を考える（基地問題や、戦争記憶の継承、貧困問題など）		
	3	いま世界でなにが	・世界でおきている戦争・紛争に関わる問題について（不発弾、地雷、少年兵、差別、経済格差など沖縄戦とつながるようなテーマ）		

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	4	平和をつくるには	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平和創造活動を紹介する</li><li>・ 沖縄平和賞樹種尾団体の活動紹介</li><li>・ ノーベル平和賞受賞団体の活動紹介</li><li>・ 児童・生徒の平和メッセージ展入賞作品紹介</li><li>・ 子どもの権利条約、世界人権宣言</li></ul>		
3. 企画展示エリア ゆいまーる	1			<ul style="list-style-type: none"><li>・ 企画展示用システム什器</li><li>・ デジタルディスプレイ、等</li></ul>	
4. 親子のプレイルーム ※世界の子どもたちとの交流 機能についてどうするのか？	1	世界の遊び・玩具	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 真の平和創造を考えるゲーム？</li><li>・ 多様なアジアの国々・子どもたち、等</li></ul> ※現展示「世界のこどもたち」の展示物を活用？		
	2	平和学習体験キット	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平和の礎 ミニチュアブロック</li><li>・ 沖縄戦争遺跡をめぐる立体マップ</li><li>・ 世界 戦争と平和マップ</li><li>・ 軍隊を持たないコスタリカの子ども達、等</li></ul>		
	3	子どもライブラリー	・ 平和を考える絵本（『つるちゃん』、『はじめてのヒロシマ』など）		
5. 対話の広場	1	対話の広場	・ 平和ガイド、語り部活動、読み聞かせ、ワークショップ、学生の研究発表、等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 多目的に活用できるファニチャーや展示什器</li><li>・ プレゼンテーションに必要な器具（ホワイトボードや映像装置など）</li></ul>	

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	2	あなたの思いや意見を聞かせて	・来館者が自分の思いや意見を発信し、それをみんなで共有	・思いや意見を書き込めるデジタル装置等	
6. 情報ライブラリー	1	情報ライブラリー			
	2	証言ビデオブース			・周囲に音がもれないようにする。

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
<b>1. 沖縄戦への経緯と沖縄戦</b> 《ねらい》 ・八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む皇国日本の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。 ・また、上記を通じて、そこに見え隠れする差別構造を浮き彫りにする。 ・米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1	近代の幕開け前夜の八重山	・ヤキーと称された八重山の風土病であった「マラリア」 ・人頭税の重圧 ・琉球王国の耕地拡大を意図した寄人政策によるマラリア有病地への強制移住 ・甚大な被害をもたらした「明和の天津波」、等		
	2	列強国をめざす日本と八重山	・海外初の出兵に利用された八重山→文言を■■■さんに確認し、検討必要。（明治4年牡丹社事件〈宮古島民が殺害された事件〉、明治7年台湾出兵） ・日本の国境となった八重山諸島 ・日の丸国旗下賜 ・八重山諸島に押し寄せた「琉球処分」 ・清国と日本政府の間で交わされた分島条約 宮古島以南は中国領土へ、等		
	3	日清・日露・第一次世界大戦と八重山	・徴兵令が敷かれる。徴兵忌避はみられない。（一方、島外から徴兵を免れる人が戸籍を移動） ・日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦 ・帝国主義と当時の植民地地図、等	・石垣村忠魂碑【新規】	
	4	笹森儀助と「人頭税」及びマラリア	・1893年、笹森儀助が島々を調査、「人頭税」廃止・マラリア問題が日本政府で取り上げられる。 ・1903年、人頭税が廃止される一方で、政府は財政難を理由にキニーネ配布を中止した。（マラリア防遏問題に関する郡民大会。約800人が参加） ・ソテツ獄とマラリア地獄 ・18世紀頃の寄人政策について（戦争マラリア以前も強制移住の歴史があったことを示すため。）、等 ※「2. 戦争マラリアの悲劇 1. マラリアとは 八重山の風土病であったマラリア」の中で取り上げることも考えられる。	・「南島探検」笹森儀助著作【新規】 ・「八重山群島瘴癘毒記」田代安貞著,明治19年（当時原因不明だった八重山の熱病フーキが主にマラリアによるものと明らかにされたのは明治中頃。この資料は明治期最初の調査記録。） ・『沖縄県八重山に於ける「マラリア」予防に関する調査』内務省衛生局発行,大正10年【新規】 （大正7年にマラリア撲滅期成会が組織され、沖縄県当局への請願運動が行われた。大正10年には八重山島庁内にマラリア予防班事務所が設置され翌年から防遏作業が始まった。この資料はその同時期に書かれたもので、無病地、有病地それぞれの戸数、人口などが詳しく調べられており、マラリア特効薬のキニーネが不足していること、どのようにキニーネが服用されているか、予防について等も記されている。）	

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	5	皇民化教育・同化政策と治安維持体制下の弾圧	<ul style="list-style-type: none"><li>・御真影、教育勅語が各学校へ下賜されていく様子</li><li>・日本教育労働組合八重山支部が治安維持法違反で弾圧</li><li>・兵士養成所となった学校</li><li>・御嶽とお宮　鳥居設置の奨励　靖国化へ、</li><li>・特攻月報、等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育勅語、旗の日</li><li>・「登野城小学校の奉安殿」写真パネル</li><li>・「奉安殿への最敬礼」石垣市所蔵、写真パネル【新規】</li></ul>	
	6	日中戦争と八重山　戦争へ加担していく八重山住民	<ul style="list-style-type: none"><li>・国家予算は軍事費に回されマラリア対策費はなくなっていく構造</li><li>・八重山から中国大陆へ　兵士として満州国へ</li><li>・八重山教員思想事件、等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・戦前の雑誌</li></ul> ※「アサヒグラフ　第33巻」1939年、等 <ul style="list-style-type: none"><li>・日章旗（保里　安枝氏　寄贈）【新規】</li><li>・誉の家札（石垣　繁氏　寄贈）【新規】</li></ul> ※参考：石垣市所蔵で八重山から日中戦争への出兵関連の写真が2点あり。	
	7	太平洋戦争と八重山	<ul style="list-style-type: none"><li>・1941年、尋常小学校を国民学校へ改組。子どもだけでなくすべての住民を「国体護持」へ</li><li>・翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生</li><li>・敗戦続く日本軍の戦意高揚でつくられた大舩松市中尉の戦死</li><li>・船浮臨時要塞、等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書</li></ul> ※「臣民の道」1941年発行	
	8	沖縄戦前夜の八重山（すべては戦争のために）	<ul style="list-style-type: none"><li>・第32軍の発足と独立混成第45旅団の編成</li><li>・飛行場建設と八重山住民（子どもから老人まで）</li></ul> ※朝鮮の人々についてもふれるかどうか。現展示では記述あり。 <ul style="list-style-type: none"><li>・台湾、九州への疎開開始</li><li>・少年志願兵結成式と少女たちの県外軍事工場行き</li><li>・供出（特に食糧については、戦争マラリアの犠牲が増えた背景でもある。証言いくつか有り。）、等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・石垣島防衛図</li><li>・「司令部が置かれた八重山農学校校舎」写真パネル、石垣市所蔵（新規）</li><li>・「第322設営隊作戦経過概要」：当時、石垣島海軍警備隊・第322設営隊に所属、砲台と特攻隊（海軍）の基地保守、滑走路の設営等が任務であった。その部隊の中で、海軍司令部に報告した資料の控え。略称：戦時日誌。かなり劣化している。（新規）、等</li></ul>	

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	9	激烈を極める空襲	<div><div><div>・本島への米軍上陸</div><div>・「捨て石作戦」としての沖縄戦</div><div>・激烈を極める<u>空襲</u></div><div>・みのかさ部隊の出現</div></div><div><div>(第506特設警備工兵隊召集。軍隊経験のない年配者が多く、軍服すら支給されず雨の日にはみのかさをかぶり作業していたことから、「みのかさ部隊」と呼ばれる。)</div><div><div>・船舶撃沈事件</div><div>・米軍捕虜虐殺事件</div><div>・空襲と御真影・教育勅語</div><div>・八重山の学徒、鉄血勤皇隊、従軍看護婦、等</div></div></div><div>※「7.沖縄戦前夜の八重山」で取り上げることも考えられる。</div></div>	<div><div>・「爆撃を受ける平得飛行場付近と平得集落」写真パネル、大田静男氏所蔵【新規】※白保飛行場が爆撃される写真もある。どちらかを活用することが考えらえる。</div><div>・「先島攻撃に向かうイギリス太平洋艦隊の空母と爆撃機」写真パネル、大田静男氏所蔵【新規】</div><div>・「家庭用の防空壕」潮平正道氏寄贈</div></div> <div>※現展示では白水の模型のところにL字壕、タコツボと併せて展示している。</div> <div><div>・沖縄戦の絵「尖閣諸島近海　疎開船への攻撃」宮良幸宏画【新規】</div><div>・「殺害された米兵3人の写真」（篠原　武夫氏寄贈）【新規】</div><div>・「八重山農学校の生徒たち」写真パネル等</div></div>	
<div>2. 戦争マラリアの悲劇</div> <div>《ねらい》</div> <div>・戦争マラリアが、軍命による有病地への強制疎開によって引き起こされた地獄のような悲劇であったことを伝える。</div> <div>・食料も薬もないなかで、住民たちがどういう悲劇を強いられたのかを伝える。</div>	1	マラリアとは？	<div><div>・マラリアの感染メカニズム</div><div>・マラリアの症状</div><div>・八重山の風土病であったマラリア、等</div></div> <div>※18世紀頃の寄人政策（有病地への強制移住の歴史）をここで取り上げることも考えられる。</div>	<div>『八重山のマラリア防遏について』宮良長詳著、昭和6年</div> <div>※令和4年度の八重山部会で複製を作成し展示したい旨が議題にあがっていました。現展示では抜粋部分をパネルで展示している。</div>	
	2	「県民指導措置八重山郡細部計画」と「戦争マラリア」	<div><div>・マラリア有病地への避難が軍命であることを示す「県民指導措置八重山郡細部計画」</div><div>・マラリア有病地への強制避難命令</div><div>・「戦争マラリア」が発生した波照間、石垣、西表、黒島、新城、鳩間</div><div>・離島残置謀者（残置工作員）について</div></div> <div>※この項目については、「3.各島々の戦争　1.各島々の戦争の様子」のところででも記述している。どちらで取り上げるのか要検討。</div> <div><div>・忘勿石</div><div>・軍の作戦や計画、各島の軍命の状況等</div><div>・行政の役割、動き等</div></div>	<div><div>・『波照間小学校沿革誌』波照間小学校所蔵【新規】</div><div>・「八重山群島ノ衛生状況大要」吉野高善執筆、昭和19年、南嶋民俗資料館所蔵（閉館されたので、現在は資料がどうなっているか分からず）【新規】</div></div> <div>※この資料は「秘」と朱書きされている独立混成第45旅団司令部の資料。手書きの資料は図も含めて46ページで、マラリアについては15ページにもなる。地図には有病地帯と無病地帯が色分けされていて、軍がマラリアの有病地を把握していたことが分かる。平成27年に複製を分館企画展で展示した。</div>	

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	3	石垣島での強制避難　軍命でマラリア有病地帯の白水へ ※白水に限定せず取り上げた方が良くはないか。3.各島々の戦争　1.各島々の戦争の様子でも、「各島々の強制移動の状況」という項目を入れており、整理が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各集落の移動先</li> <li>強制避難命令の真の目的、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東畑広吉参謀長による八重山におけるマラリア有病地への退去（強制避難）が軍の命令であった事を示す手記</li> <li>鉄田義司氏の日記</li> <li>潮平寛保氏の日記、等</li> </ul>	
	4	避難地生活の実相	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料も薬もない避難生活</li> <li>粗末で不衛生な居住環境</li> <li>次々とマラリアに罹患し倒れる島民たち</li> <li>看病、埋葬の状況</li> <li>等</li> </ul> <p>※戦争マラリアの犠牲者数を提示するときに、直接戦争死亡者が八重山で178名だったと示すと、より八重山の戦争の特徴が分かるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>潮平（しおひら）正道氏の絵画</li> <li>白水戦争遺跡群ミニジオラマ</li> <li>犠牲者が作成した高熱に苦しむ母子像</li> <li>マラリアで死んだ2人目の少女を埋める親子の絵</li> <li>サン（沖縄のお守り・少女2人の形見）</li> <li>忘勿石</li> <li>白水の遺留品</li> <li>避難小屋の模型</li> <li>避難所カマド後の模型</li> <li>避難小屋の絵</li> <li>死者埋葬の絵、等</li> </ul>	
	5	証言（石垣島）			
<b>3．各島々の戦争</b> 《ねらい》 ・石垣島以外の島々の沖縄戦時の状況を伝える。 ・各島の住民たちに下された強制疎開の状況を解説する。 ・証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。	1	各島々の戦争の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>空襲</li> <li>漁船撃沈</li> <li>各島々の強制移動の状況</li> <li>各島の軍隊配備状況</li> <li>離島残置諜者と八重山、等</li> </ul>		
	2	証言/西表島	<ul style="list-style-type: none"> <li>護郷隊</li> <li>安東丸事件、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄戦の絵「西表島　座礁船安東丸への爆撃」 村山　信安画【新規】</li> </ul>	
	3	証言/波照間島			
	4	証言/竹富島	<ul style="list-style-type: none"> <li>空襲</li> <li>独立歩兵三〇一大隊第一中隊（通称：大石隊）</li> </ul>		



大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	5	証言/小浜島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アームルティの震洋艇格納庫壕</li> <li>・朝鮮人軍属</li> <li>・空襲、等</li> </ul>		
	6	証言/鳩間島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空襲</li> <li>・鳩間島国民学校校長 宇江城正喜殉職、等</li> </ul>		
	7	証言/黒島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離島残置工作員 山川敏夫（本名：河島登）</li> <li>・独立混成第45旅団司令部から広井獣医が派遣され、牛の屠殺、解体を行う。その牛を船舶工兵第二三聯隊第一中隊肥田木部隊（通称：暁部隊）により司令部に送られた。</li> <li>・牛の屠殺、等</li> </ul>		
	8	証言/新城島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空襲、等</li> </ul>		
	9	証言/与那国島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空襲</li> <li>・離島残置工作員 柿沼秀男（本名：阿久津敏朗）、山本政雄（本名：中屋八郎）、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画【新規】</li> </ul>	
<b>4. 八重山の戦後と復興史</b> 《ねらい》 ・戦後取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚者による人口増加、米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取組等を紹介。 ・復興に向かう八重山の状況について紹介する。	1	マラリア撲滅と住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後直後のマラリア対策とその成果</li> <li>・大濱信賢と「マラリア撲滅に関する取締規則」</li> <li>・DDTと抗マラリア薬「アテブリン」</li> <li>・藪の伐採、水道の浚渫</li> <li>・米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃</li> </ul> <p>※戦後、八重山ではマラリア防遏がすすめられ、1949年には患者数が激減し、あと数年で撲滅できるかと思われたタイミングで移民が入ってきたため1953年から移民マラリアが発生し、患者数は2000名程度まで増加した。その後1957年にウィラープランが開始され1962年に撲滅された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WHOによるマラリア根絶計画の公表</li> <li>・ウィラー博士招聘とウィラープランの展開等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診表</li> <li>・アテブリン</li> <li>・マラリア防遏のチラシ</li> <li>・マラリア発生状況調査綴り</li> <li>・入植者の健康診断書と有病地家屋建築許可願い</li> <li>・薬剤撒布報告書綴り</li> <li>・藪伐採環形書類綴り</li> <li>・蚊族（幼虫）調査綴り</li> <li>・マラリア患者原簿</li> <li>・マラリア原虫保有者名簿</li> <li>・脾腫患者名簿</li> <li>・噴霧器、散粉器、マスク、顕微鏡</li> <li>・マラリア撲滅計画表、等</li> <li>・「八重山群島のマラリア患者数の推移」</li> <li>・「マラリア防遏課 看板」八重山保健所寄贈【新規】</li> </ul>	



大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
	2	県内移民の移住先となった八重山と復興	<div>・沖縄島や宮古島等からの移民者　米軍基地建設で土地接收された人々</div> <div>※八重山への戦後移民の背景には、引揚者などによる人口増加と食糧難、米軍基地の拡大に伴う土地接收などがある。</div> <div>1948年頃から自由移民が入って来るようになり、1948年宮古から西表島住吉地区への入植が戦後移民の第一号。その後</div> <div>1952年に琉球政府による計画移民がスタート。八重山への移民は、米軍基地の集中している沖縄本島中部地区出身者や、平地の少ない沖縄本島北部地区出身者が多い。戦前から海外へ多くの移民を送り出していた宮古からも、戦後に次々と帰還してくる引揚者による人口増加のため、八重山へ移民する人たちがいた。受入側の八重山は、食糧難、人手不足、道路開通などのインフラ整備の面から、移民受入に積極的で米軍政府にも働きかけをしていたよう。1949年から協議がスタートし、海外からの引揚者、戦後農地を失った者を優先する等の条件をたて、1952年から計画移民開始。</div> <div>・八重山から沖縄島、本土への出稼ぎ・移住（移動する人々）</div> <div>・若者の流出と沖縄戦を知らない本土からの移住者</div> <div>・混在する中での復興</div> <div>・密航、密貿易、等</div> <div>・八重山自治政府　・八重山復興博覧会（昭和25年）道路開通（オグデン道路など）・琉米文化会館・とぅばらーま大会（昭和22年から）、等</div>	・『新八重山』八重山民政府発行	
5．戦争マラリア援護会の活動  《ねらい》 ・沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えとともに、その活動の成果として、慰霊碑や本施設が設置されてことなどについて伝える。	1	沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動	<div>・総決起大会</div> <div>・陳情活動</div> <div>・追悼式の開催</div> <div>・篠原教授が援護会活動を始めるきっかけとなった一冊、等</div>	<div>・「陳情書」</div> <div>・「援護会組織図」</div> <div>・総決起大会、要請活動の写真</div> <div>・追悼式の写真</div> <div>・援護会　たすき</div> <div>・「平和への証言」</div> <div>・マラリア犠牲者調査表綴</div>	
	2	慰藉（いしゃ）事業の概要	<div>・八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立</div> <div>・「八重山平和祈念館」の設立</div> <div>等</div>	<div>・八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑　写真（外観と中のようす）</div> <div>・慰霊碑と同じ材料で作られた石</div>	

大項目	中項目		関連キーワード	展示物候補	リニューアルにあたっての視点
<b>6. 八重山から平和を発信</b> ＜ねらい＞ ・沖縄戦、そして、「戦争マラリア」を経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信。  ・八重山で取り組まれている平和活動を紹介しながら、平和創造を目指して沖縄戦・「戦争マラリア」を経験した八重山がどのような取り組みをしてきたのかを伝える。  ・自衛隊の配備など、今もなを戦争と隣り合わせにある八重山の状況を伝える。	<b>1</b>	昔も今も国境の島の苦しさ	・尖閣諸島をめぐる中国の動き、台湾有事への懸念、北朝鮮のミサイル開発等のアジア情勢  ・八重山への自衛隊配備  ・自衛隊と住民  ・「沖縄戦の教訓」の立場は何処へ、等		
	<b>2</b>	八重山の平和を願う心とその活動	・「島々を戦場にさせない！ 全国がつながろう i n 石垣島」  ・「平和コンサート」  ・戦争体験講話会  ・児童・生徒の平和メッセージ展、等  ・八重山と台湾の関係（パイナップル、水牛、漁など民間レベルでは共存してきた歴史）  ・慰霊碑の建立（慰霊、どのように戦時中のことを残そうとしてきたのか）		
	<b>3</b>	その他	・愛楽園、南静園、ハンセン病		

## 展示更新に係る今後の検討課題（本館共通）

### 1 「展示むすびのことば」について

#### （1）課題

本館の第4室「証言の部屋」と第5室「太平洋の要石」の間に設置されている「展示むすびのことば」について、設置場所を変更するか否か。

#### （2）主な委員意見

- 「展示むすびのことば」は、旧資料館から引き継いだもので「戦後」は含まれていないので現在の展示場所が適当である。「戦後」を含むのであれば、新しく作る必要があるのではないか。
- 製作された方々の思いを引き継ぐことが大事であり、経緯、新聞記事など含め調査が必要である。
- 「戦後時代」部会の総意として、第1室～第5室の結び（最後）に移動すべきとの見解が示されている。
- 旧館の展示更新の経緯など、「展示むすびのことば」が作られた背景や制作に関わった人たちが表に出てくるような解説等を追加して、最後の展示物として展示するのはどうか。
- 「展示むすびのことば」は資料館が引き継ぐ理念として重要なものであり、内容は変更しない方が望ましいのではないか。

#### （3）事務局意見（案）

- 「展示むすびのことば」は、この大きさの壁（スペース）を確保するのは難しいのではないか。
- 製作された当時の経緯などは今後調査していきたい。旧館から引き継がれてきたものであり、内容を変更することはかなりハードルが高いのではないか。

## 2 「各展示室」の名称について

### (1) 課題

各展示の名称「沖縄戦への道」「鉄の暴風」「地獄の戦場」「証言」「太平洋の要石」を見直すか否か。

### (2) 主な委員意見

- 「太平洋の要石」は見直したほうが良いが、1室から4室の状況も踏まえ全体で考える必要がある。
- 来館者向けにわかりやすいネーミングをつけるべきである。

### (3) 事務局意見（案）

各室の名称については、概ね旧資料館の各展示室から引き継がれており、監修委員会全体での意見も踏まえながら、全体で整合を図るかたちで検討していきたい。

## 3 「収容地区」の展示の住み分けについて

### (1) 課題

収容地区は、現在は第5室の冒頭に展示があるが、戦前・戦中時代の第1室～第3室でも展示すべき事象があり、住み分けをどうすべきか。

### (2) 主な委員意見

- 戦時中、収容地区でも多くの犠牲がでており、この観点からの展示を新たに設ける必要がある。

### (3) 事務局意見（案）

- 「戦前・戦中時代」部会、「戦後時代」部会の意見を踏まえ、展示の住み分けを検討していきたい。
- 来観者視点で考えた場合、第5室に展示がある方が理解しやすいのではな

いか。収容地区の展示が複数あることに違和感を抱かないか、住み分け、  
見せ方を検討する必要がある。

- 旧資料館第4室展示室の名称は「収容所から」となっている。

#### **4 「未来への平和創造」の移設（2階第5室⇒1階）について**

##### **（1）課題**

「未来への平和創造」（20世紀の戦争と紛争、21世紀の平和創造、変貌する  
世界情勢）の展示については、1階子どもプロセス展示室のコーナーに移設し  
てはどうか。

##### **（2）主な委員意見**

- 議論されておらず、意見なし。

##### **（3）事務局意見（案）**

2階第5室はスペースが狭く、1階に移設する方向で検討したい。

以上